

4 介護保険サービス未利用者調査

(1) 基本属性

現在の居住場所 (F 1)

現在の居住場所は、「自宅 (89.2%)」が最も多く、「病院等に入院している (7.8%)」が続いている (図表 4 - 1 - 1)。

図表 4 - 1 - 1 現在の居住場所 (全体)



記入者 (F 2)

調査票に記入した人は、「あて名ご本人 (63.9%)」が最も多く、「ご家族 (29.4%)」が続いている (図表 4 - 1 - 2)。

前回調査と比べると本人回答が増加している (前は本人の回答 57.0%)。

図表 4 - 1 - 2 記入者 (全体)



性別 (F 3)

回答者の性別は、「女性 (67.4%)」が多く、「男性 (32.1%)」の2倍以上となっている (図表 4 - 1 - 3)。

前回調査と比べると女性が増加している (前は女性 57.8%)。

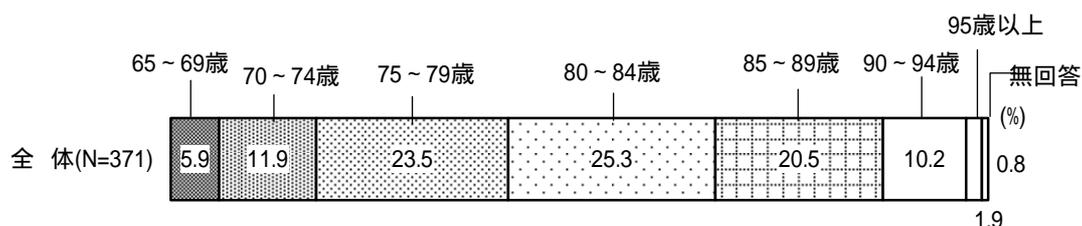
図表 4 - 1 - 3 性別 (全体)



年齢 (F 4)

回答者の年齢は、「80～84歳(25.3%)」が最も多く、「75～79歳(23.5%)」、「85～89歳(20.5%)」が続いている。75歳以上の後期高齢者が81.4%を占めている(図表4-1-4)。前回調査と比べると後期高齢者が増加している(前回は後期高齢者56.2%)。

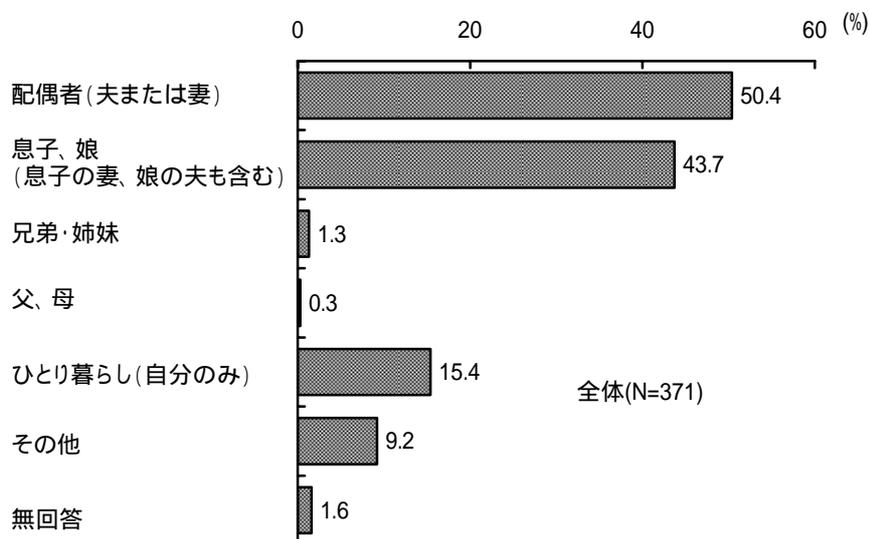
図表4-1-4 年齢(全体)



同居家族 (F 5)

同居家族は「配偶者(50.4%)」が最も多く、「息子、娘(43.7%)」が続いている。「ひとり暮らし(15.4%)」は2割以下となっている(図表4-1-5)。

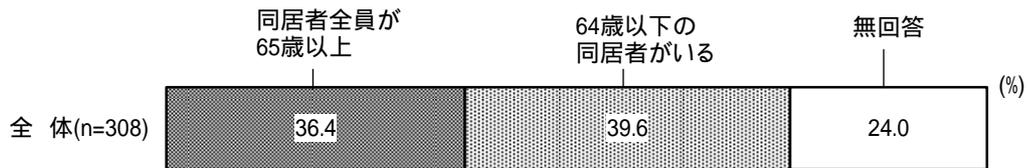
図表4-1-5 同居家族(全体：複数回答)



同居者の年齢 (F 5 - 1)

「ひとり暮らし(自分のみ)」以外の人に同居者の年齢をたずねた。「64歳以下の同居者がいる(39.6%)」と「同居者全員が65歳以上(36.4%)」がほぼ同じ割合となっている(図表4-1-6)。

図表4-1-6 同居者の年齢
<同居者がいると回答した人>(全体)

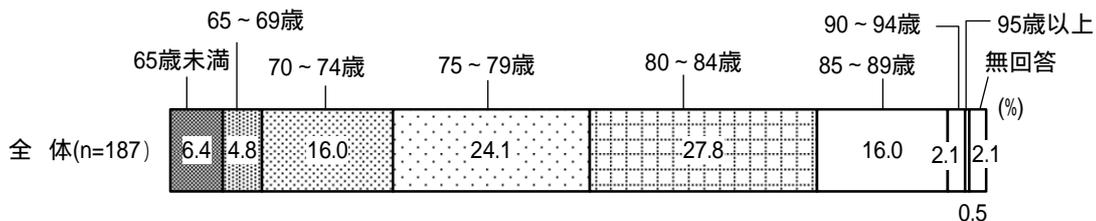


配偶者の年齢 (F 5 - 2)

「配偶者(夫または妻)」がいる場合、配偶者の年齢は「80~84歳(27.8%)」が最も多く、「75~79歳(24.1%)」、「70~74歳(16.0%)」と「85~89歳(16.0%)」が続いている。75歳以上の後期高齢者が7割(70.5%)を占める(図表4-1-7)。

前回調査と比べると配偶者も後期高齢者が増加している(前回は後期高齢者56.2%)。

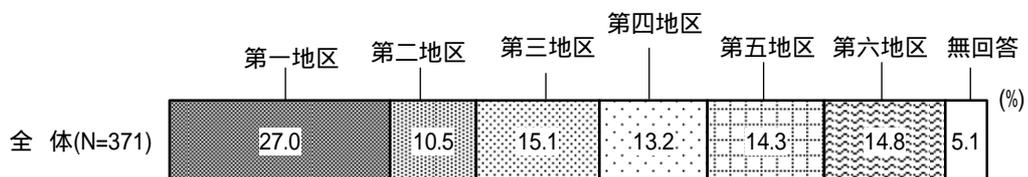
図表4-1-7 配偶者の年齢
<配偶者がいると回答した人>(全体)



居住地域 (F 6)

居住地域は「第一地区(27.0%)」が最も多く、「第三地区(15.1%)」、「第六地区(14.8%)」、「第五地区(14.3%)」が続いている(図表4-1-8)。

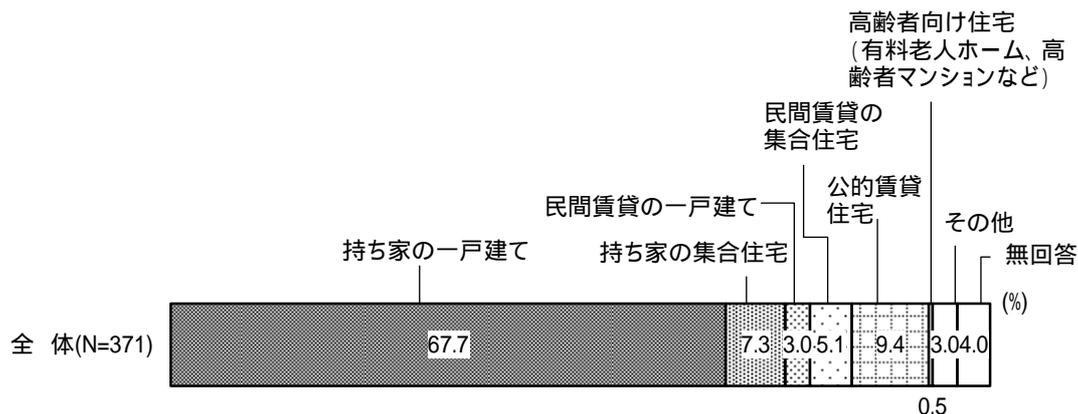
図表4-1-8 居住地域(全体)



住宅の所有形態 (F 7)

住宅の所有形態は「持ち家の一戸建て (67.7%)」が最も多く、「公的賃貸住宅 (9.4%)」、「持ち家の集合住宅 (7.3%)」が続いている。「高齢者向け住宅 (0.5%)」は少ない (図表 4 - 1 - 9)

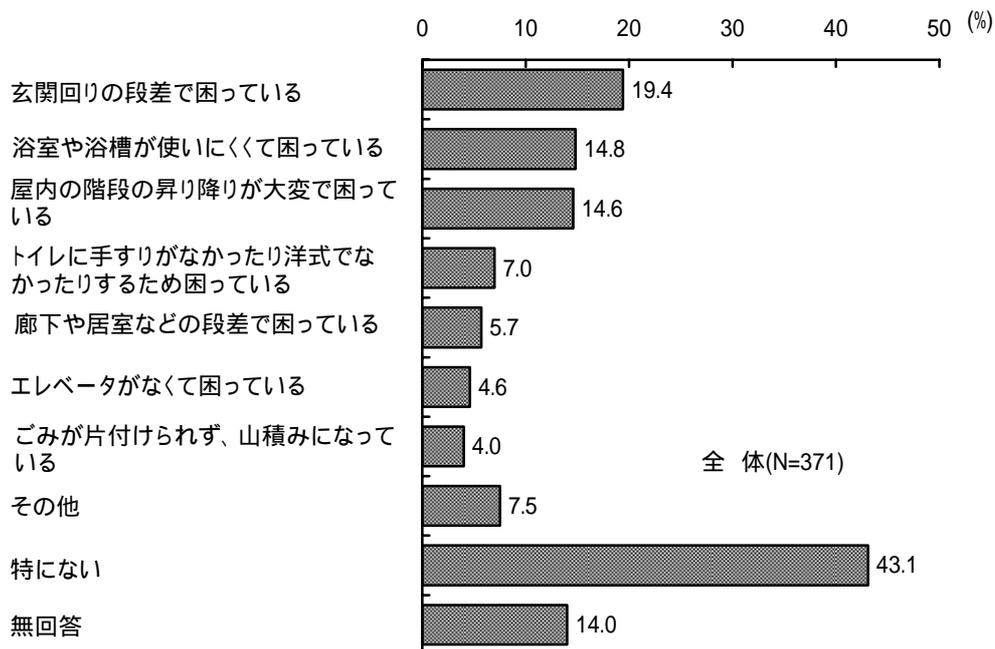
図表 4 - 1 - 9 住宅の所有形態 (全体)



住宅の問題点 (F 7 - 1)

住宅の問題点は「特にない (43.1%)」が最も多い。困っていることの内容は、「玄関回りの段差で困っている (19.4%)」が最も多く、「浴室や浴槽が使いにくくて困っている (14.8%)」、「屋内の階段の昇り降りが大変で困っている (14.6%)」が続いている (図表 4 - 1 - 10)

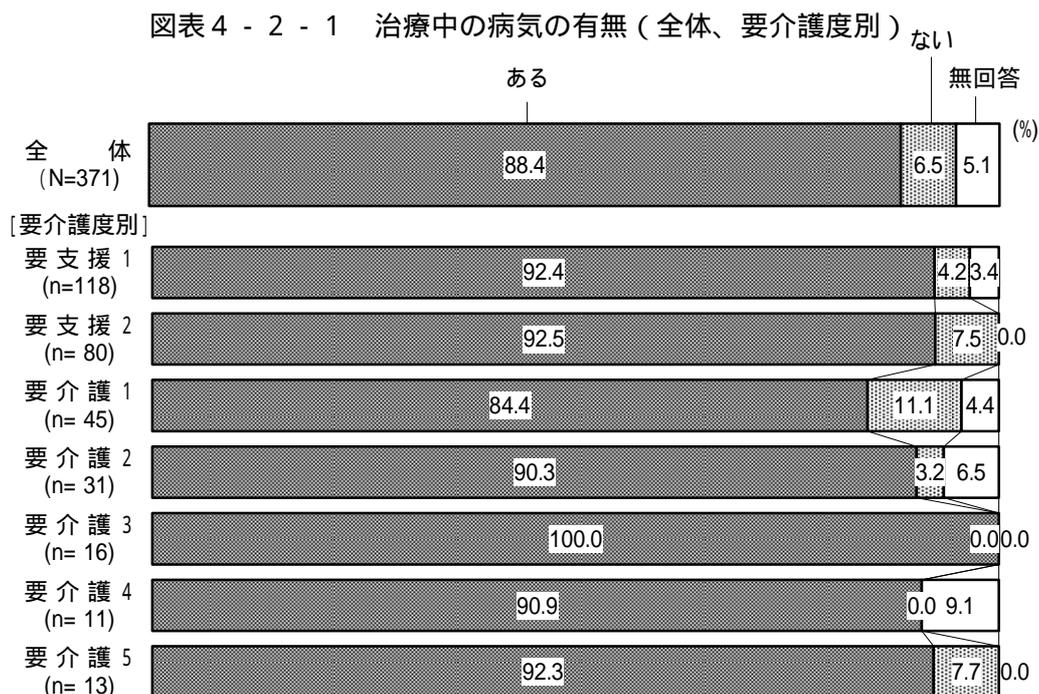
図表 4 - 1 - 10 住宅の問題点 (全体：複数回答)



(2) 医療の状況

治療中の病気の有無（問1）

現在治療中の病気は、「ある（88.4%）」が9割弱を占める。要介護度別にみると、「ある」の割合は要介護1を除いて、9割以上である（図表4-2-1）。

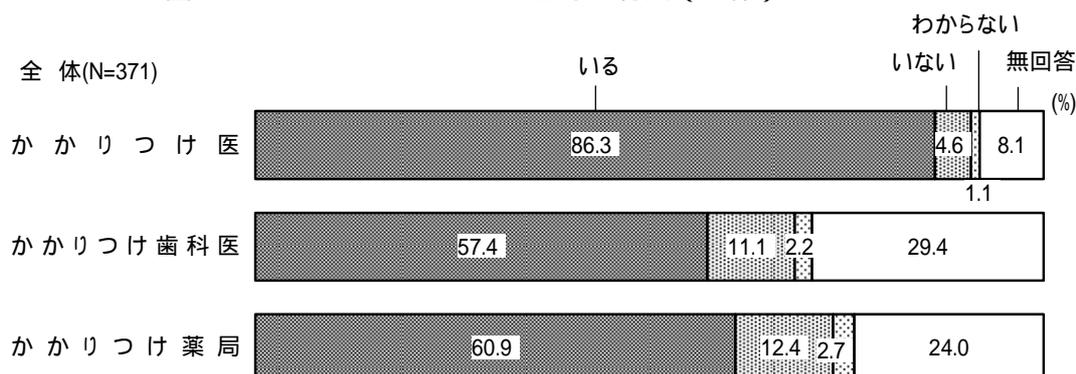


かかりつけ医・かかりつけ歯科医・かかりつけ薬局（問2）

かかりつけ医は、「いる（86.3%）」が約9割、かかりつけ歯科医は、「いる（57.4%）」が6割弱、かかりつけ薬局は、「いる（60.9%）」が6割強である（図表4-2-2）。

前回調査と比べると、「いる」は、かかりつけ医（前回74.9%）、かかりつけ歯科医（前回51.7%）、かかりつけ薬局（前回56.5%）いずれも増加している。

図表4-2-2 かかりつけ医等の有無（全体）



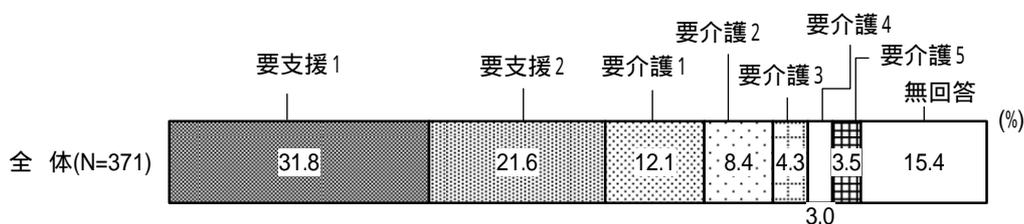
(3) 介護保険サービスの利用

要介護度(問3)

要介護度は、「要支援1(31.8%)」が最も多く、「要支援2(21.6%)」、「要介護1(12.1%)」が続いている(図表4-3-1-)。

要介護度を3段階に分けてみると、「要支援(要支援1、2)」が53.4%、「軽度要介護(要介護1、2)」が20.5%、「重度要介護(要介護3~5)」が10.8%で、比較的軽度な要支援・要介護者が7割以上である(図表4-3-1-)。

図表4-3-1- 要介護度(全体)



図表4-3-1- 要介護度(3段階)(全体)

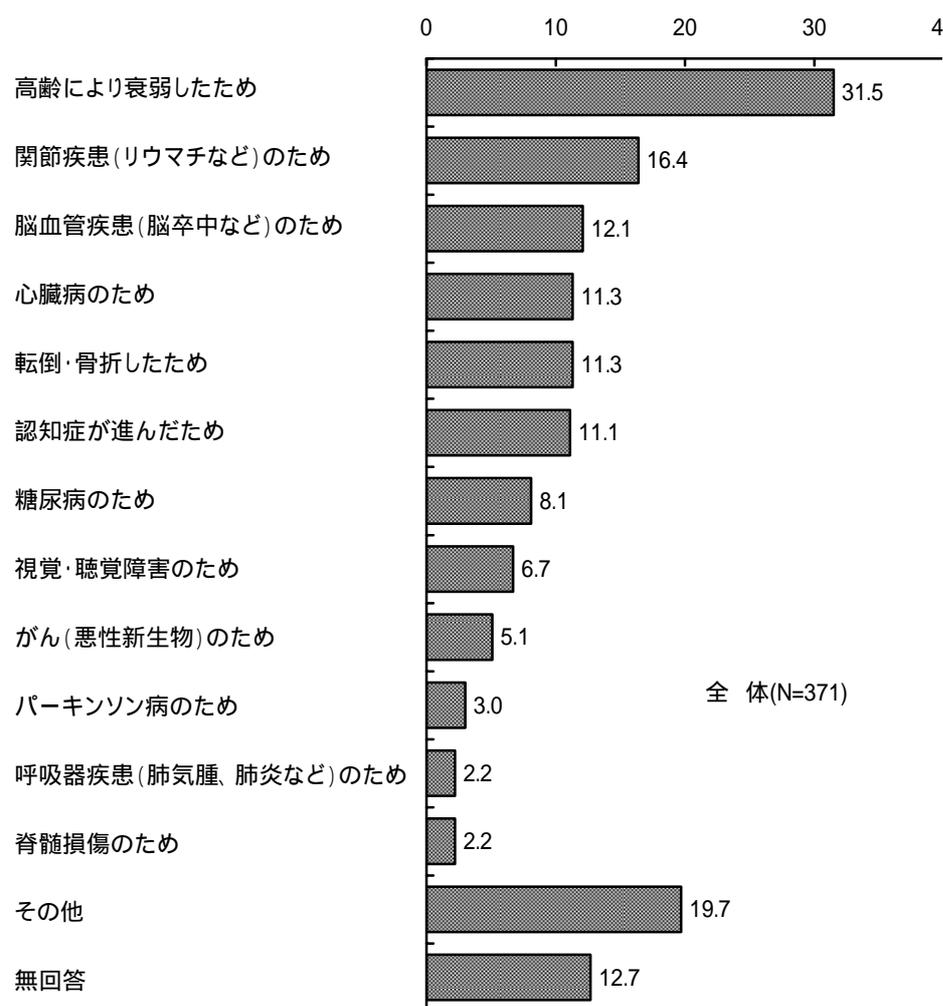
	合計	要支援 1	軽度要介護 2	重度要介護 3	無回答
実人数	371	198	76	40	57
比率	100.0%	53.4%	20.5%	10.8%	15.4%

1: 要支援1、2 2: 要介護1、2 3: 要介護3、4、5

要支援・要介護になった理由（問4）

要支援・要介護になった原因は、「高齢により衰弱したため（31.5%）」が最も多く、「関節疾患（リウマチなど）のため（16.4%）」、「脳血管疾患（脳卒中など）のため（12.1%）」が続いている（図表4-3-2）。

図表4-3-2 要支援・要介護になった原因（全体：複数回答）



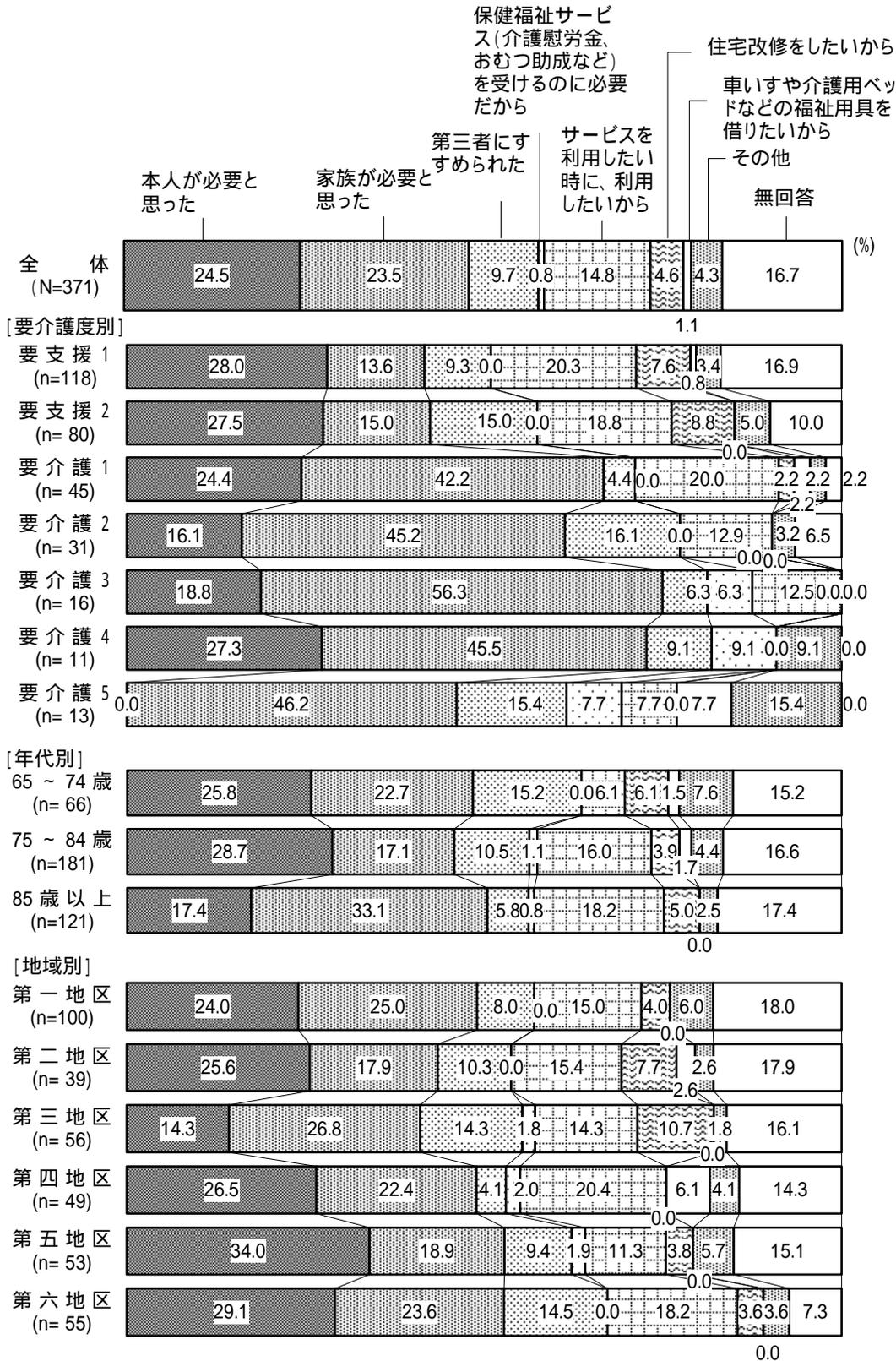
要介護認定の申請の理由（問5）

「要介護認定」の申請をしようと思った理由（きっかけ）は、「本人が必要と思った（24.5%）」が最も多く、「家族が必要と思った（23.5%）」、「サービスを利用したい時に利用したいから（14.8%）」が続いている。

要介護度別にみると、「本人が必要と思った」と「サービスを利用したい時に利用したいから」は、要支援1、2や要介護1で比較的多く、「家族が必要と思った」は、要介護3以上で多くなっている。

年齢別にみると、「85歳以上」では「本人が必要と思った」が比較的少なく、「家族が必要と思った」が比較的多くなっている（図表4-3-3）

図表4-3-3 要介護認定の申請の理由
（全体、要介護度別、年代別、地域別）



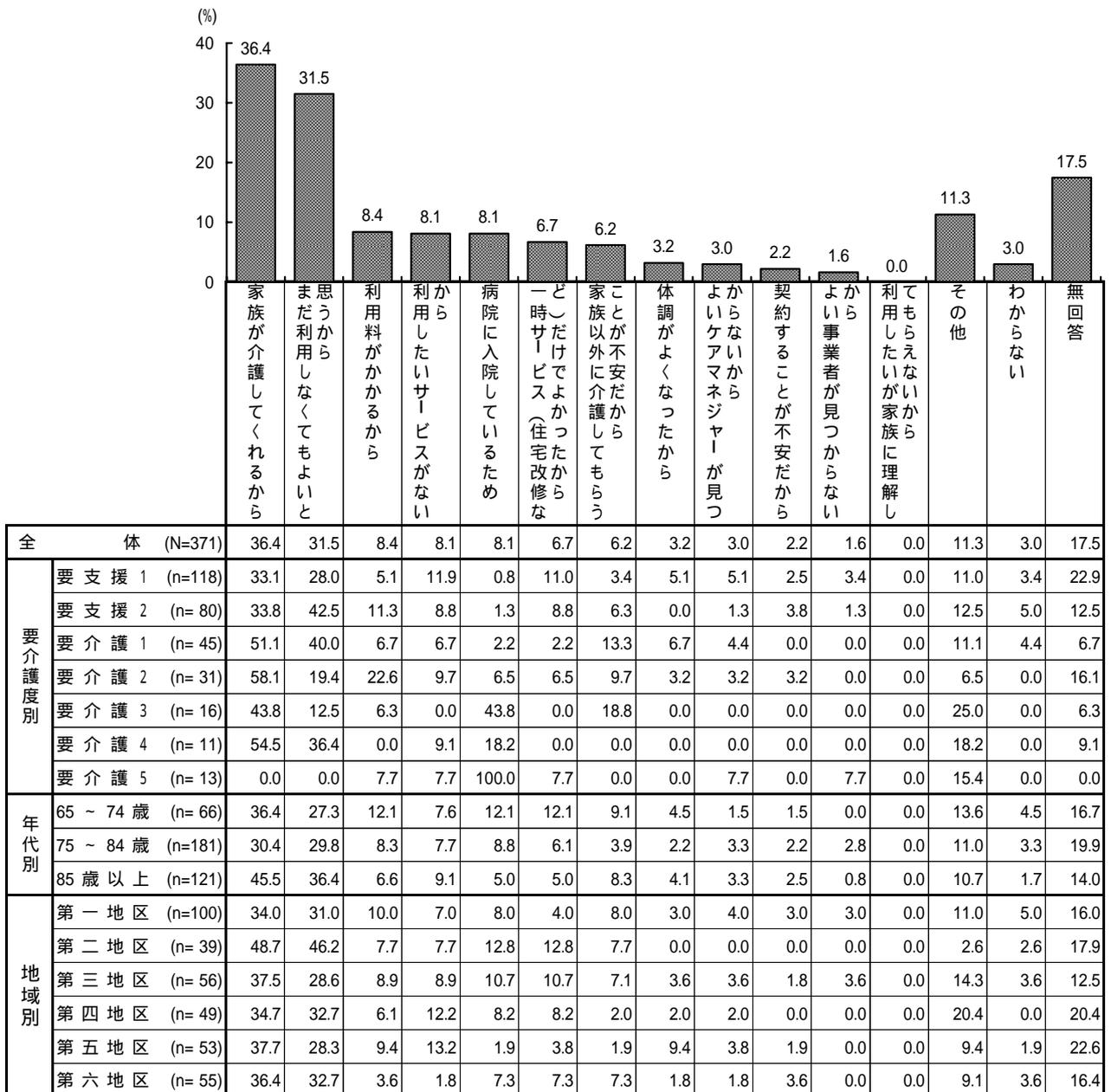
介護保険サービスを利用しない理由（問6）

「要介護認定」を受けながら介護保険サービスを利用しない理由は、「家族が介護してくれるから（36.4%）」と「まだ利用しなくてもよいと思うから（31.5%）」が多くなっている。

要介護度別にみると、「家族が介護してくれるから」は要介護1以上で多く、「まだ利用しなくてもよいと思うから」は、要支援2や要介護1で比較的多い。要介護5では全ての人「病院に入院しているため」と回答している。

年齢別にみると、「85歳以上」では「家族が介護してくれるから」と「まだ利用しなくてもよいと思うから」が他の年齢に比べると多くなっている（図表4-3-4）。

図表4-3-4 介護保険サービスを利用しない理由
（全体、要介護度別、地域別：複数回答）



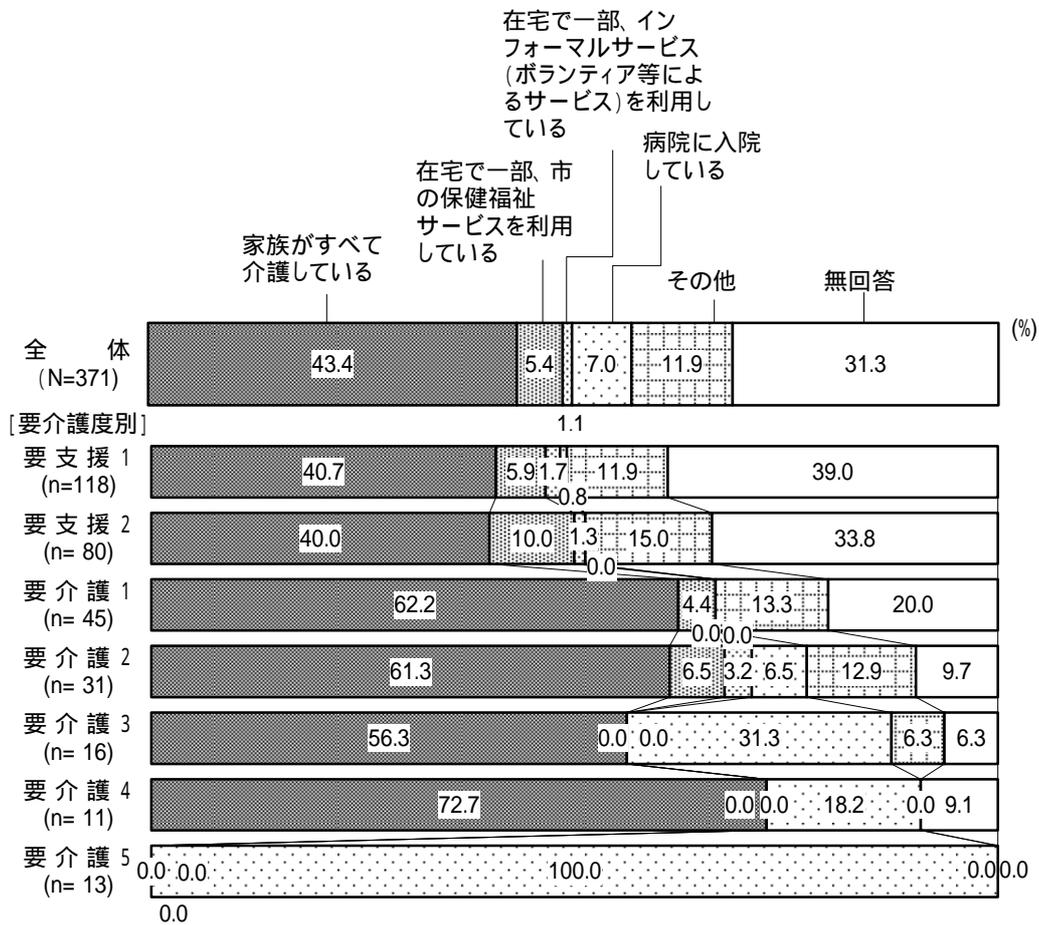
現在、介護を受けている方法（問7）

現在、介護を受けている方法は、「家族が全て介護している（43.4%）」が最も多く、4割以上である。

要介護度別にみると、「家族が全て介護している」は要介護4では7割以上、要介護1と2では、6割以上である。要介護5は全ての人々が「病院に入院している」と回答している（図表4-3-5）。

前回調査と比べると、「家族が全て介護している」が増加している（前回34.3%）。

図表4-3-5 現在、介護を受けている方法（全体、要介護度別）

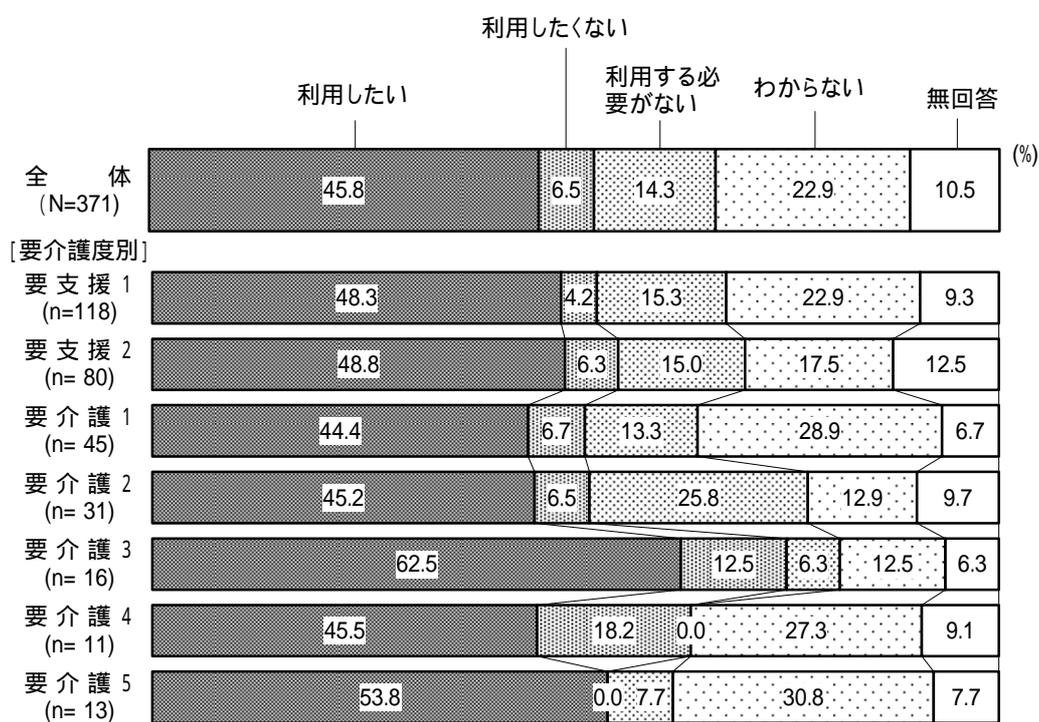


介護保険サービスの利用意向（問8）

介護保険サービスの利用意向は、「利用したい(45.8%)」が4割以上である。「利用したくない(6.5%)」と「利用する必要がない(14.3%)」をあわせると、利用意向のない人は約2割である。

要介護度別にみると、要介護3では6割以上、要介護5では5割以上が「利用したい」と回答している（図表4-3-6）。

図表4-3-6 介護保険サービスの利用意向（全体、要介護度別）

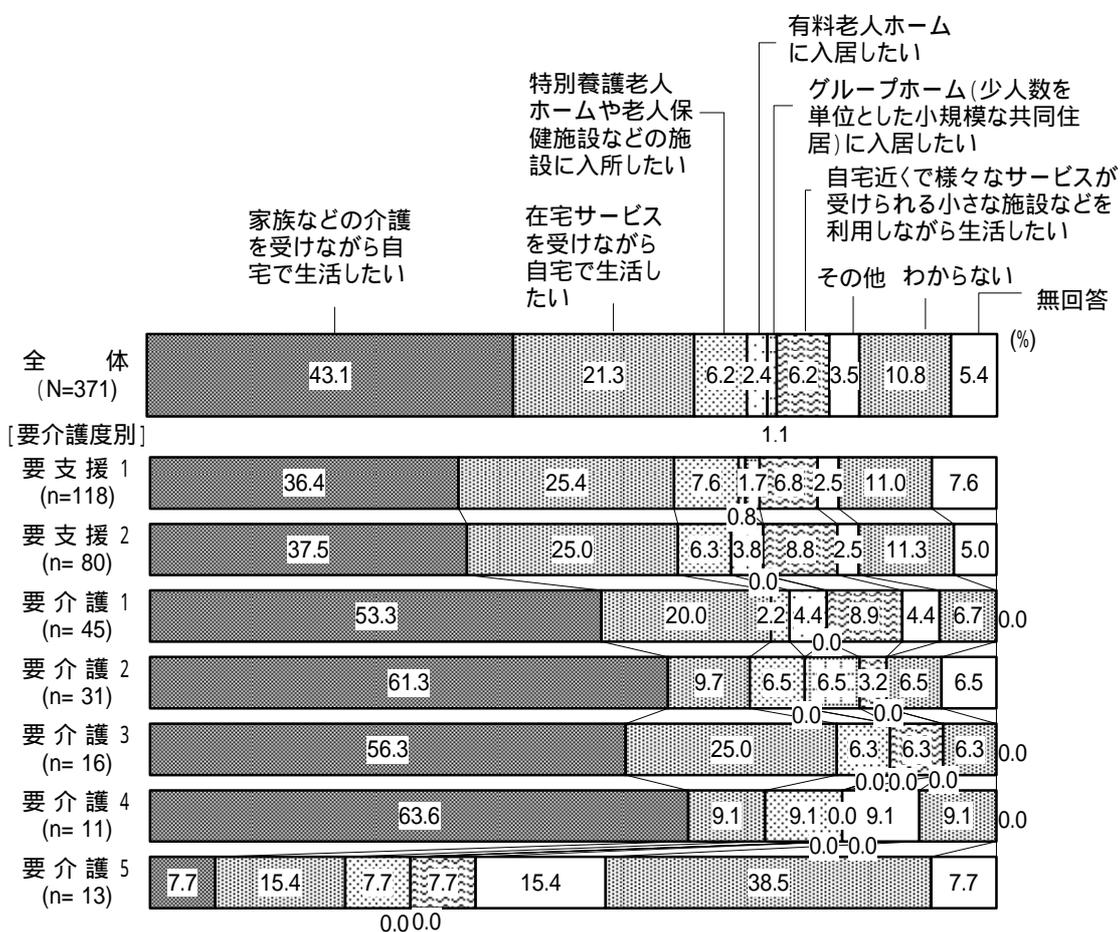


今後、生活したい場所（問9）

今後、生活したい場所は、「家族などの介護を受けながら自宅で生活したい(43.1%)」、「在宅サービスを受けながら自宅で生活したい(21.3%)」をあわせると6割以上が自宅での生活を望んでいる。

要介護度別にみると、要支援1～要介護4までは自宅での生活を望む割合が多いが、要介護5になると「わからない」が38.5%となり、自宅での生活（「家族などの介護を受けながら(7.7%)」と「在宅サービスを受けながら(15.4%)」）を超えている（図表4-3-7）。

図表4-3-7 今後、生活したい場所（全体、要介護度別）



(4) 介護保険

保険料段階 (問 10)

保険料段階は、「第6段階 (17.5%)」が最も多く、「第4段階 (17.3%)」、「わからない (13.5%)」、「第5段階 (11.9%)」が続いている (図表4-4-1)

前回調査では、「第3段階 (16.6%)」が最も多く、「第4段階 (12.7%)」、「第5段階 (11.6%)」が続いていた。

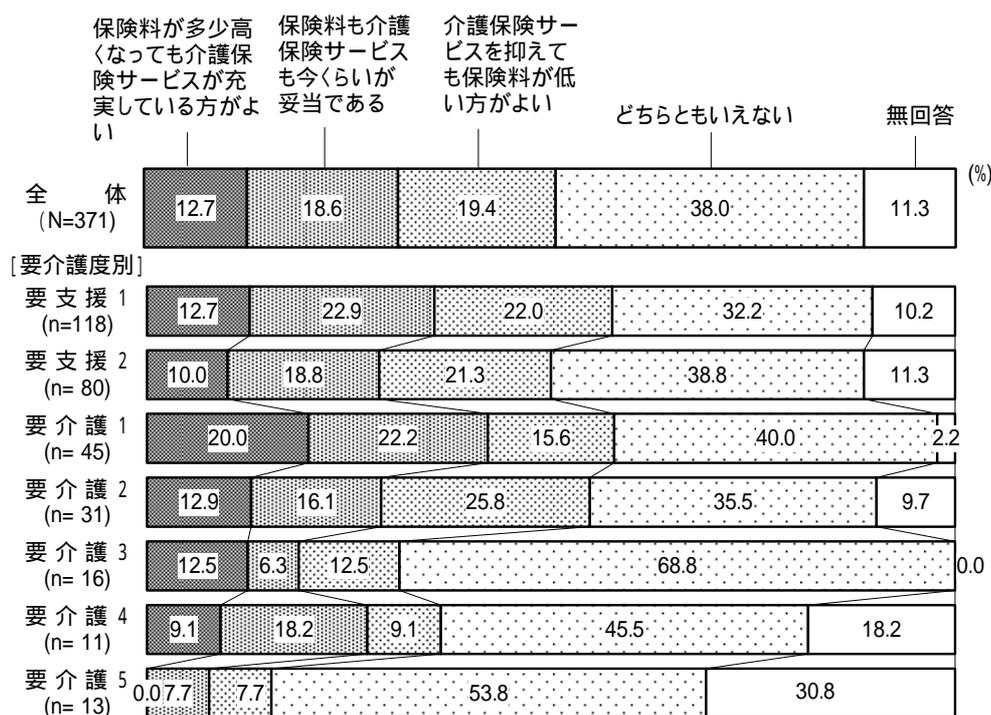
図表4-4-1 保険料段階 (全体)



介護保険サービスと保険料についての考え方 (問 11)

介護保険サービスと保険料についての考え方は、「どちらともいえない (38.0%)」が最も多く、「介護保険サービスを抑えても保険料が低い方がよい (19.4%)」、「保険料も介護保険サービスも今くらいが妥当である (18.6%)」が続いている (図表4-4-2)

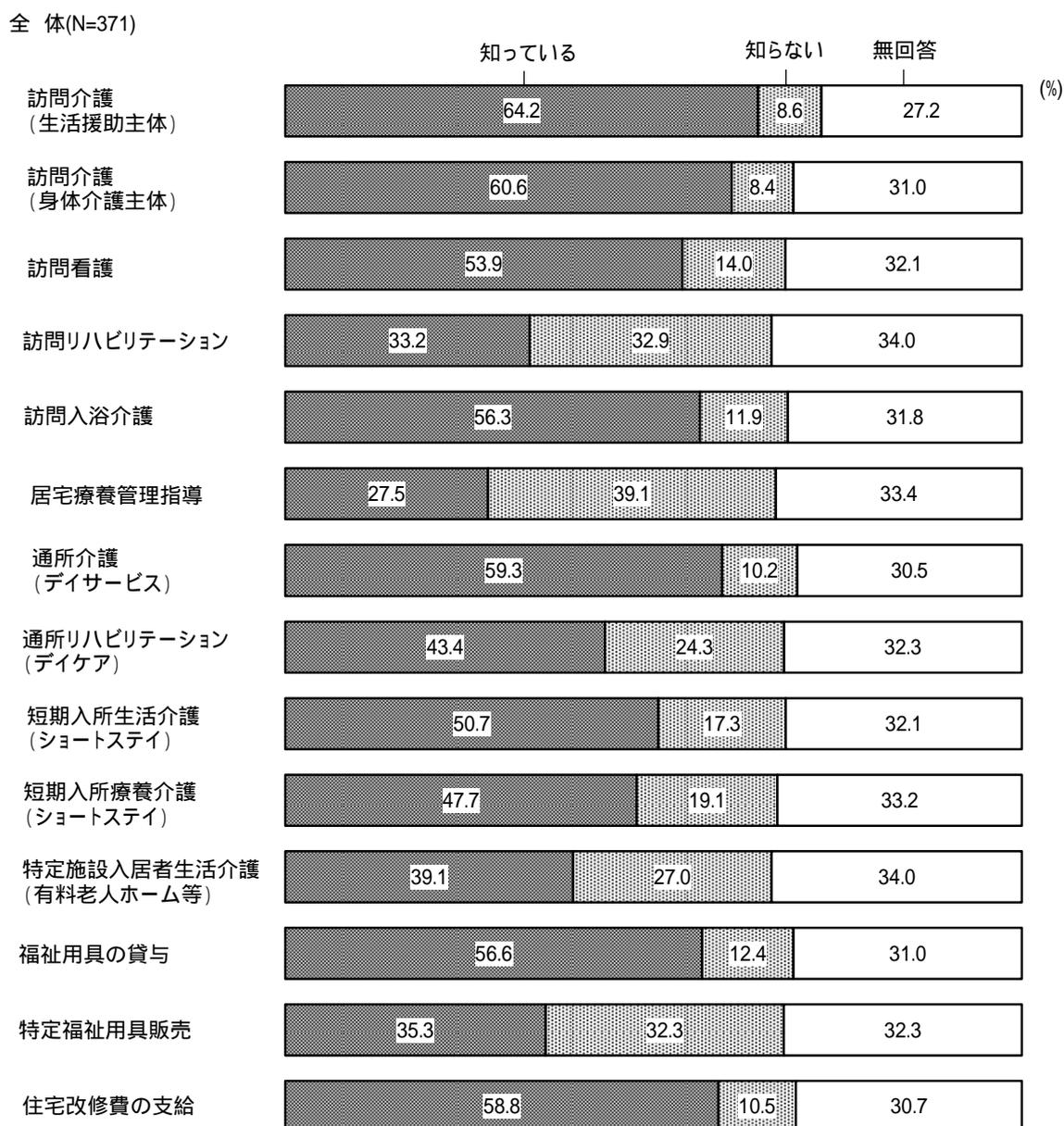
図表4-4-2 介護保険サービスと保険料についての考え方 (全体、要介護度別)



居宅サービスの認識度と利用意向（問12）

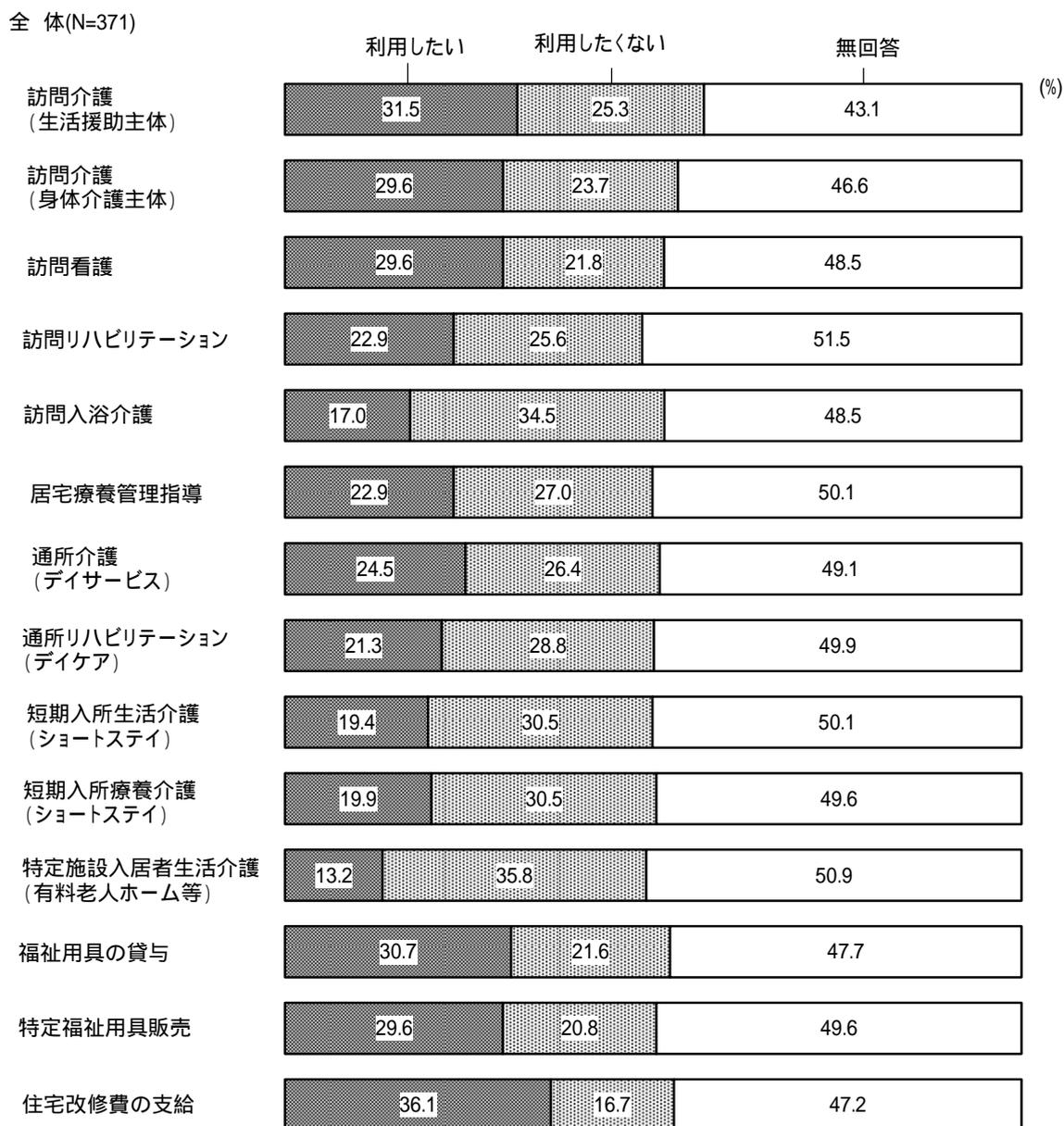
居宅サービスについて「知っている」は、「訪問介護（生活援助主体）（64.2%）」が最も多く、「訪問介護（身体介護主体）（60.6%）」、「住宅改修費の支給（58.8%）」、「福祉用具の貸与（56.6%）」が続いている（図表4-4-3- ）。

図表4-4-3- 居宅サービスの認識度（全体）



利用意向は、「住宅改修費の支給（36.1%）」が最も多く、「訪問介護（生活援助主体）（31.5%）」、「福祉用具の貸与（30.7%）」が続いている（図表4-4-3- ）。

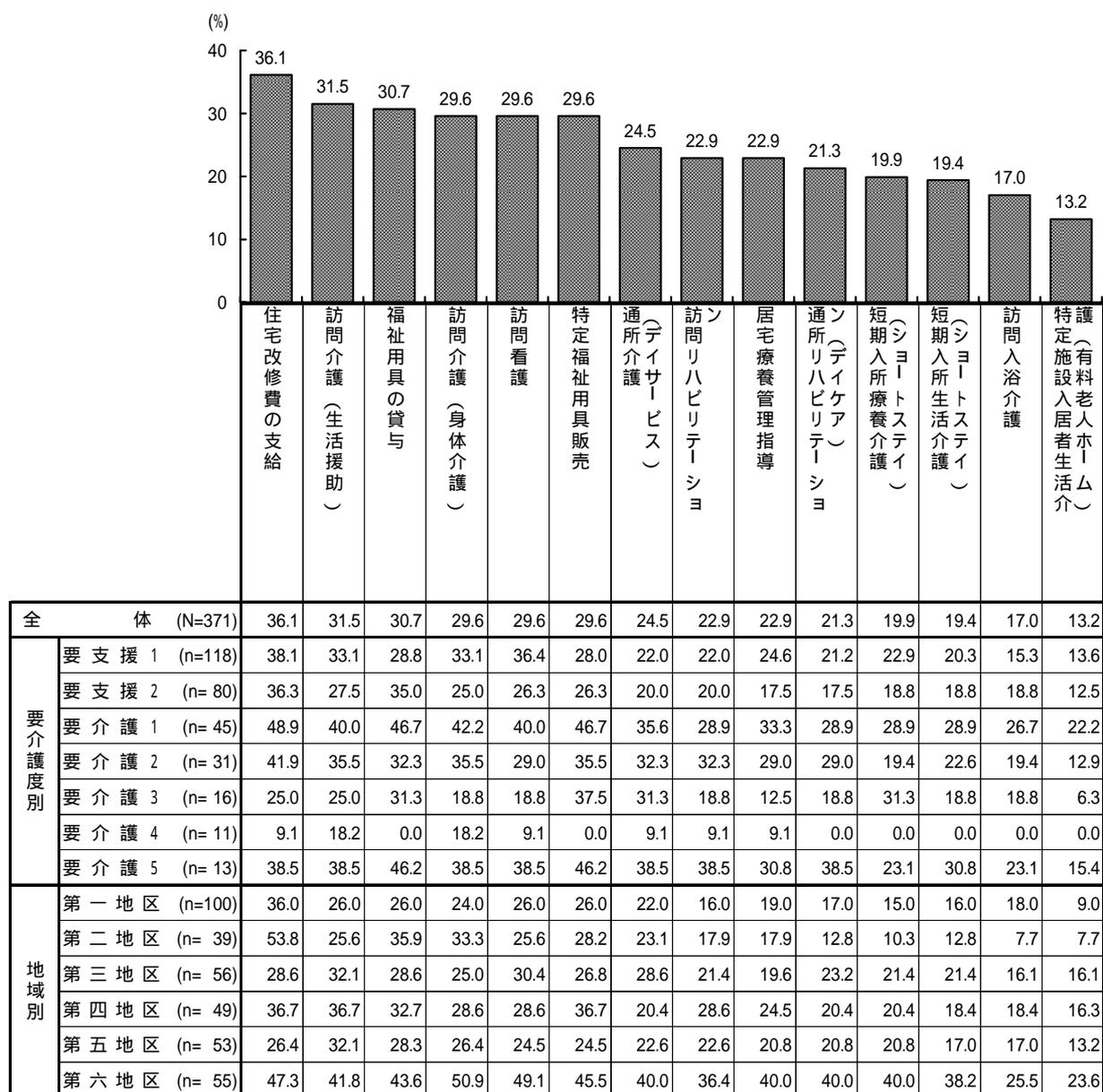
図表4-4-3- 居宅サービスの利用意向（全体）



要介護度別にみると、要介護1では「住宅改修費の支給」が約5割のほか、5項目が4割を超え、サービスの利用意向が高くなっている。

地域別では、第六地区では「訪問介護(身体介護)」が約5割のほか、9項目が4割を超え、サービスの利用意向が高くなっている(図表4-4-3-)。

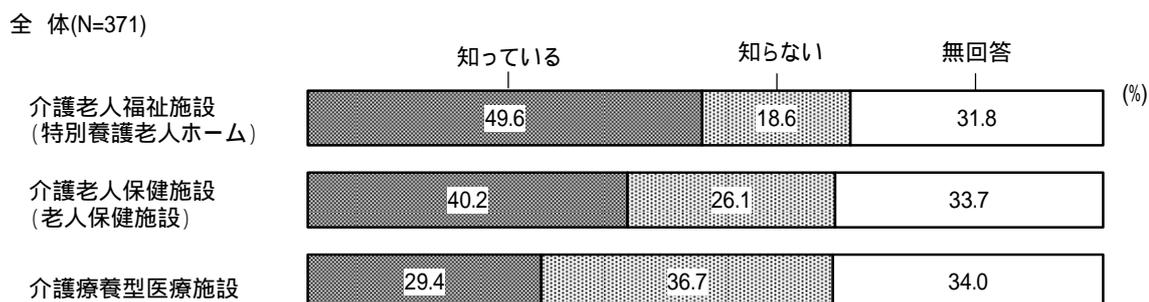
図表4-4-3- 居宅サービスの利用意向(全体、要介護度別、地域別)



施設サービスの認識度と利用意向（問 12）

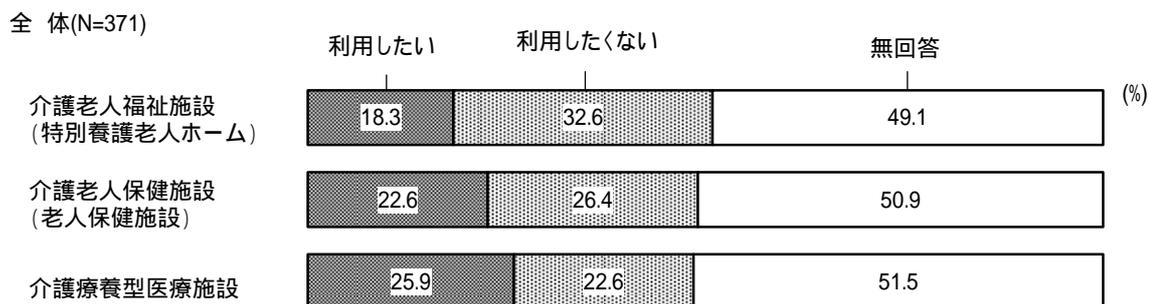
施設サービスについて「知っている」は、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）（49.6%）」が最も多く、「介護老人保健施設（老人保健施設）（40.2%）」、「介護療養型医療施設（29.4%）」の順になっている。介護療養型医療施設は「知らない」が「知っている」を上回っている（図表 4 - 4 - 4 - ）。

図表 4 - 4 - 4 - 施設サービスの認識度（全体）



利用意向は、「介護療養型医療施設（25.9%）」が最も多く、「介護老人保健施設（老人保健施設）（22.6%）」、「介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）（18.3%）」の順になっている。特別養護老人ホームと老人保健施設は「利用したくない」が「利用したい」を上回っている（図表 4 - 4 - 4 - ）。

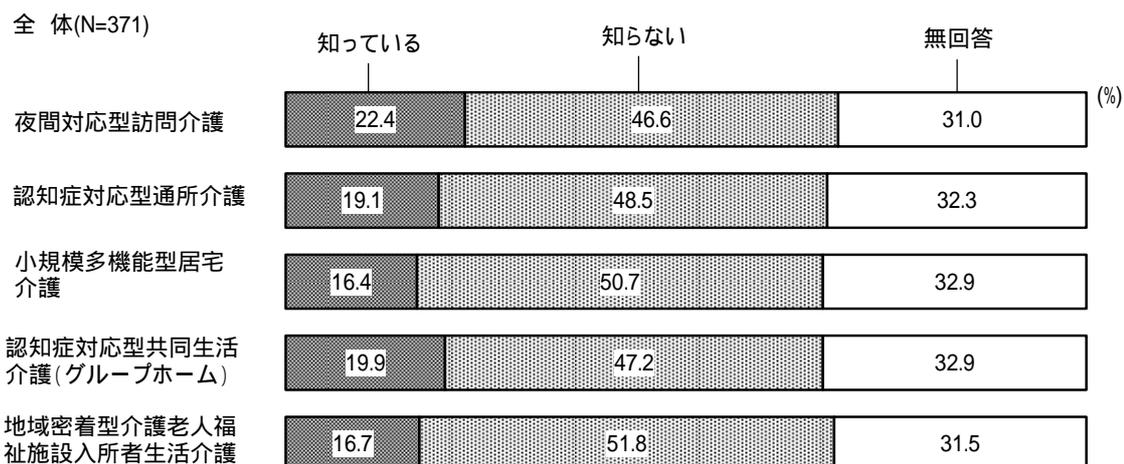
図表 4 - 4 - 4 - 施設サービスの利用意向（全体）



地域密着型サービスの認識度と利用意向（問13）

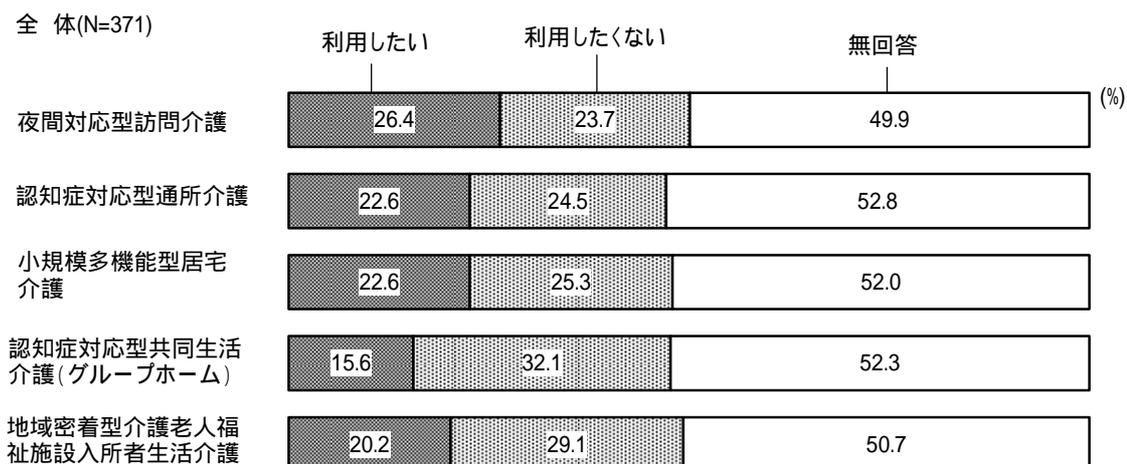
地域密着型サービスについて「知っている」は、「夜間対応型訪問介護（22.4%）」が最も多く、「認知症対応型共同生活介護（グループホーム）（19.9%）」、「認知症対応型通所介護（19.1%）」が続いている（図表4-4-5- ）。

図表4-4-5- 地域密着型サービスの認識度（全体）



利用意向は、「夜間対応型訪問介護(26.4%)」が最も多く、「認知症対応型通所介護」と「小規模多機能型居宅介護」がそれぞれ22.6%で続いている（図表4-4-5- ）。

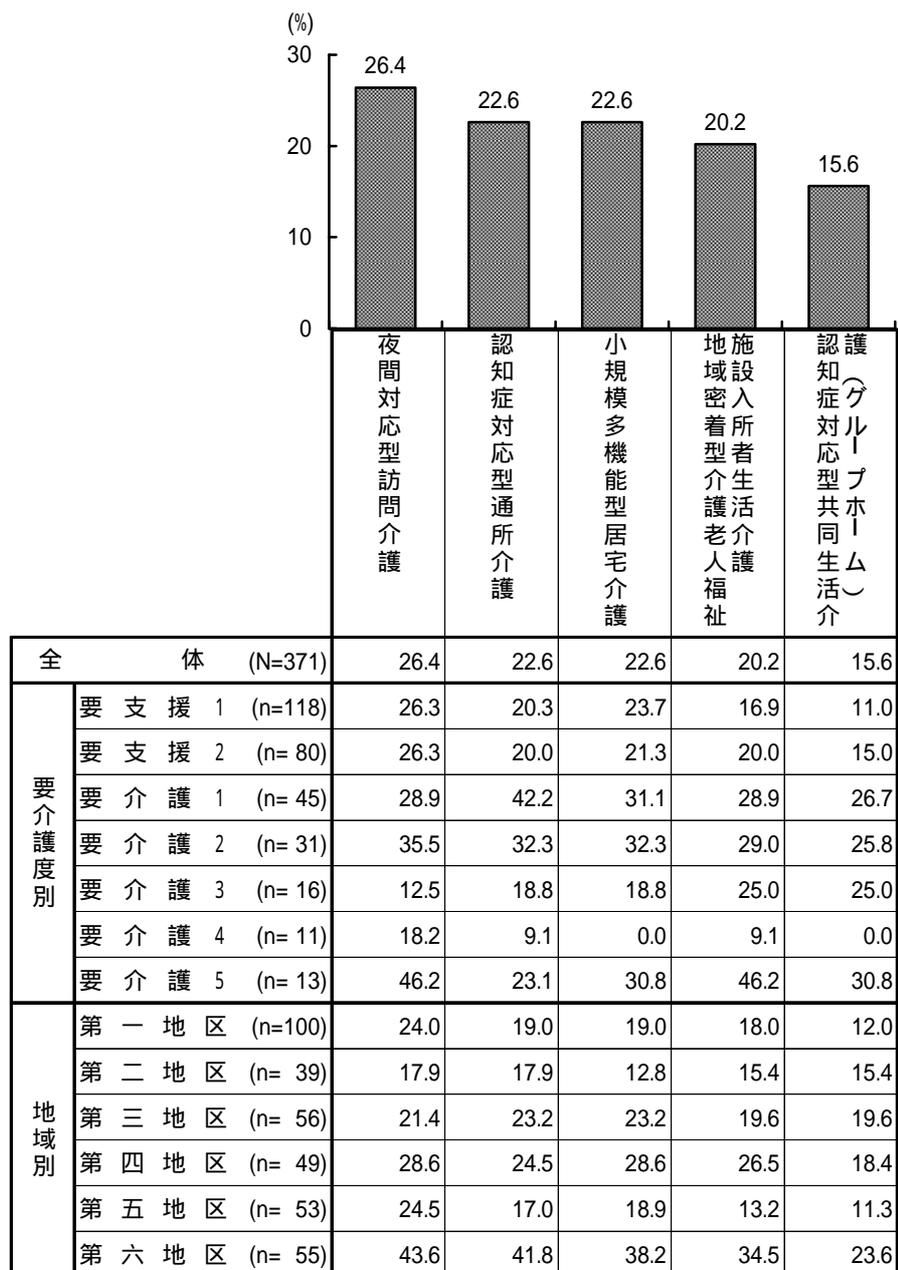
図表4-4-5- 地域密着型サービスの利用意向（全体）



要介護度別にみると、要介護5では「夜間対応型訪問介護」と「地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護」の利用意向が高く、5割近くとなっている。要介護1では「認知症対応型通所介護」の利用希望が4割と高くなっている。

地域別では、第六地区では「夜間対応型訪問介護」が4割を超えるほか、2項目が約4割で、サービスの利用意向が高くなっている（図表4-4-5- ）。

図表4-4-5- 地域密着型サービスの利用意向（全体、要介護度別、地域別）

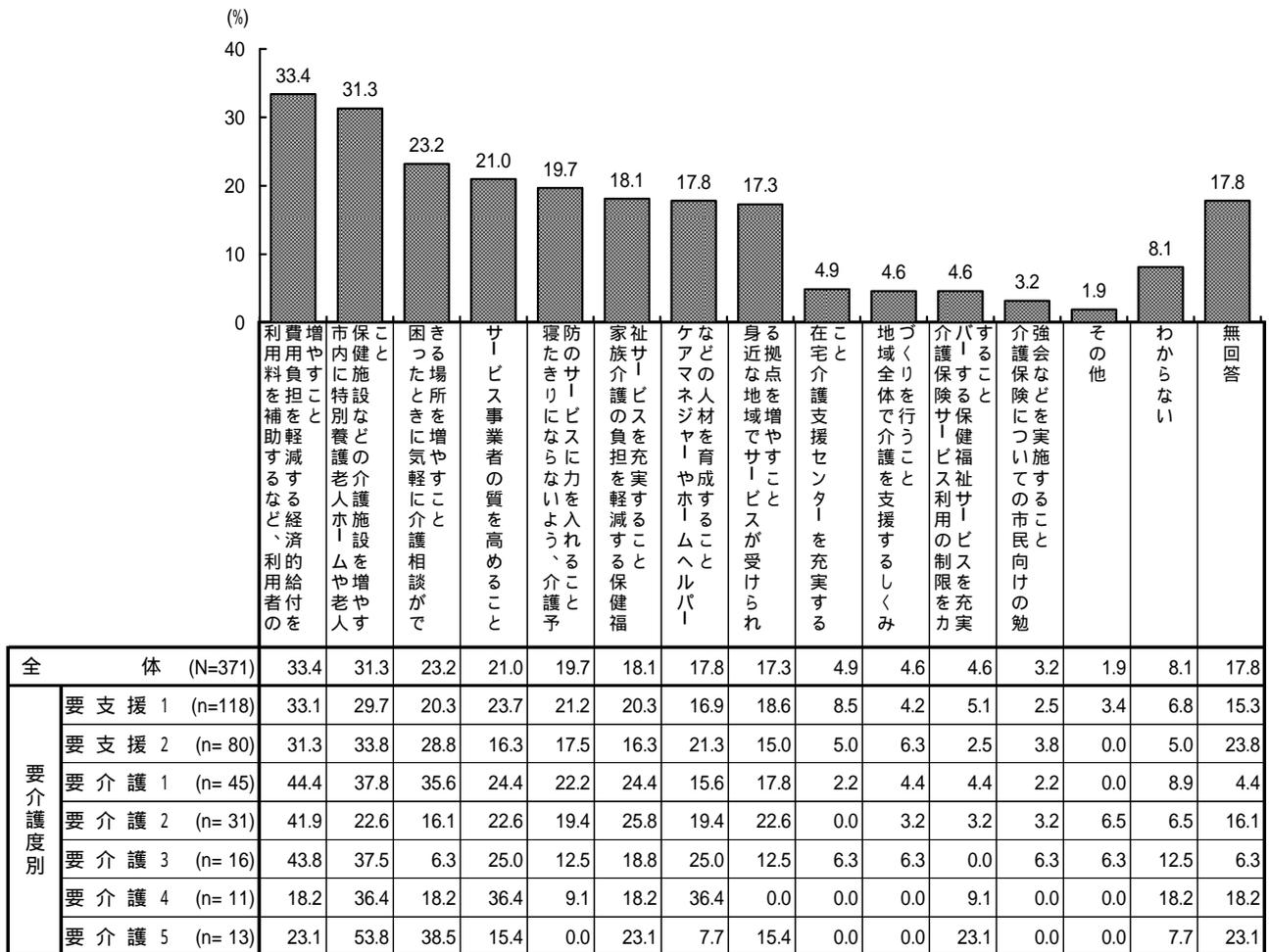


介護保険制度をよくするため市が力を入れるべきこと（問14）

介護保険制度をよりよくするため、市が力を入れるべきことは、「利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと（33.4%）」が最も多く、「市内に特別養護老人ホームなどの介護施設を増やすこと（31.3%）」、「困ったときに気軽に介護相談ができる場所を増やすこと（23.2%）」が続いている。

要介護度別に上位項目をみると、要介護5では「市内に特別養護老人ホームなどの介護施設を増やすこと（53.8%）」が5割を超え、「困ったときに気軽に介護相談ができる場所を増やすこと（38.5%）」が続いている。要介護4では「サービス事業者の質を高めること」、「ケアマネジャーやホームヘルパーなどの人材を育成すること」が4割近い。要介護1～3では「利用者の費用負担を軽減する経済的給付を増やすこと」が最も多く4割を超えている（図表4-4-6）。

図表4-4-6 介護保険制度をよくするため市が力を入れるべきこと
（全体、要介護度別：複数回答）

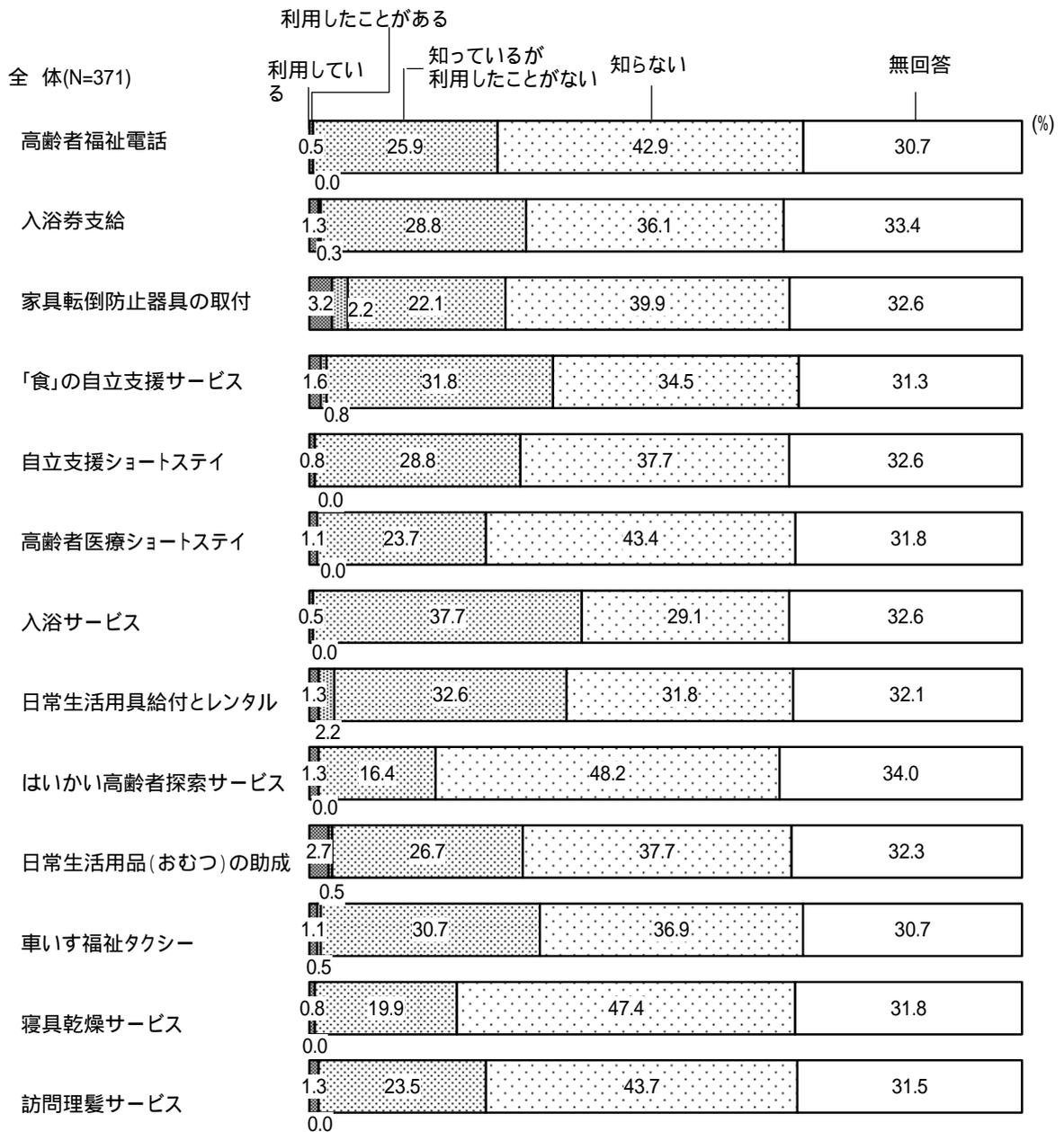


(5) 保健福祉サービス

保健福祉サービスの利用状況と利用意向(問15)

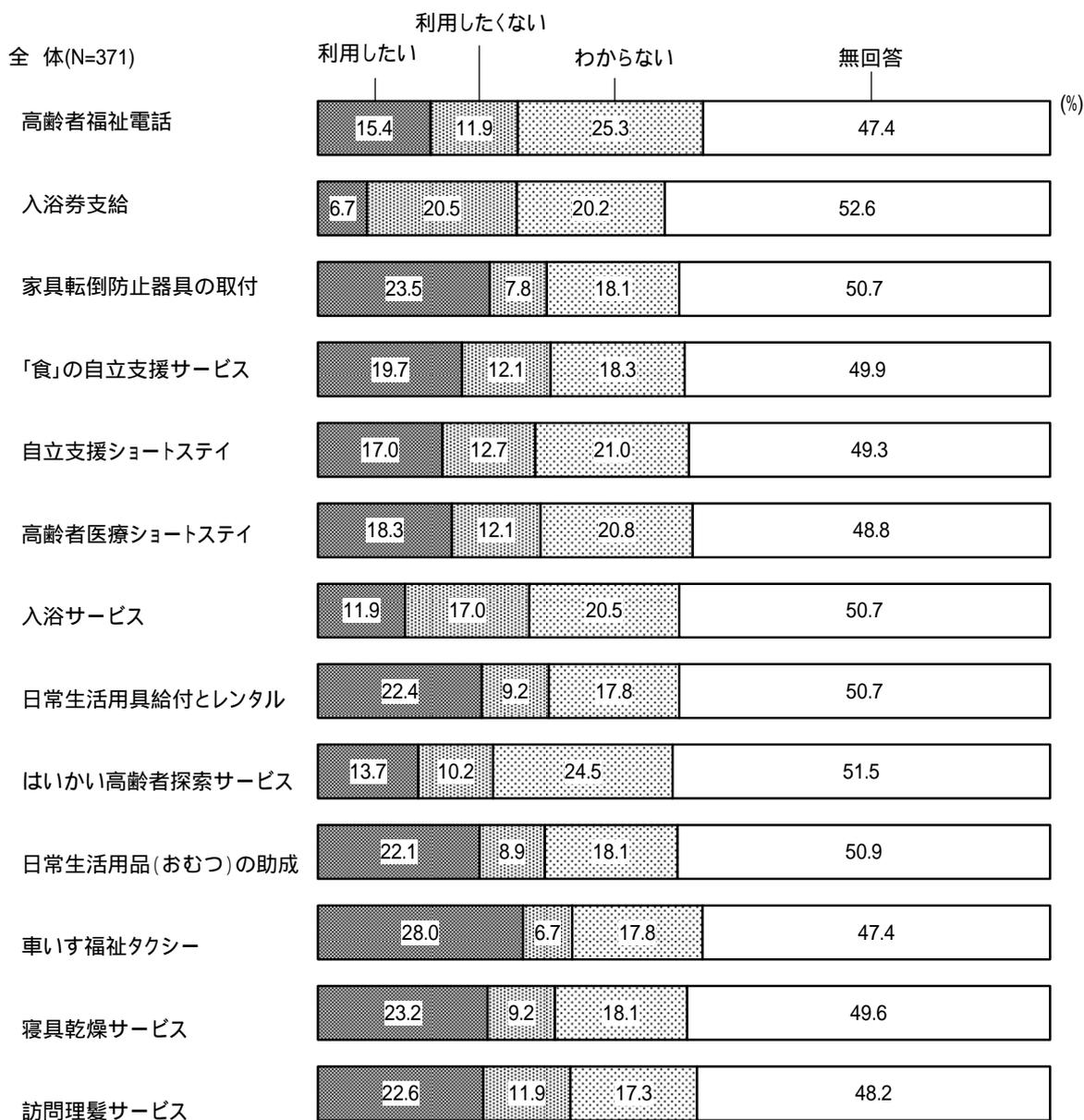
保健福祉サービスの利用状況は全体に多くないが、中では「家具転倒防止器具の取り付け(3.2%)」が最も多く、「日常生活用品(おむつ)の助成(2.7%)」、「食の自立支援サービス(1.6%)」が続いている(図表4-5-1-)。

図表4-5-1- 保健福祉サービスの利用状況(全体)



利用意向は、「車いす福祉タクシー(28.0%)」が最も多く、「家具転倒防止器具の取り付け(23.5%)」、「寝具乾燥サービス(23.2%)」が続いている(図表4-5-1-)。

図表4-5-1- 保健福祉サービスの利用意向(全体)

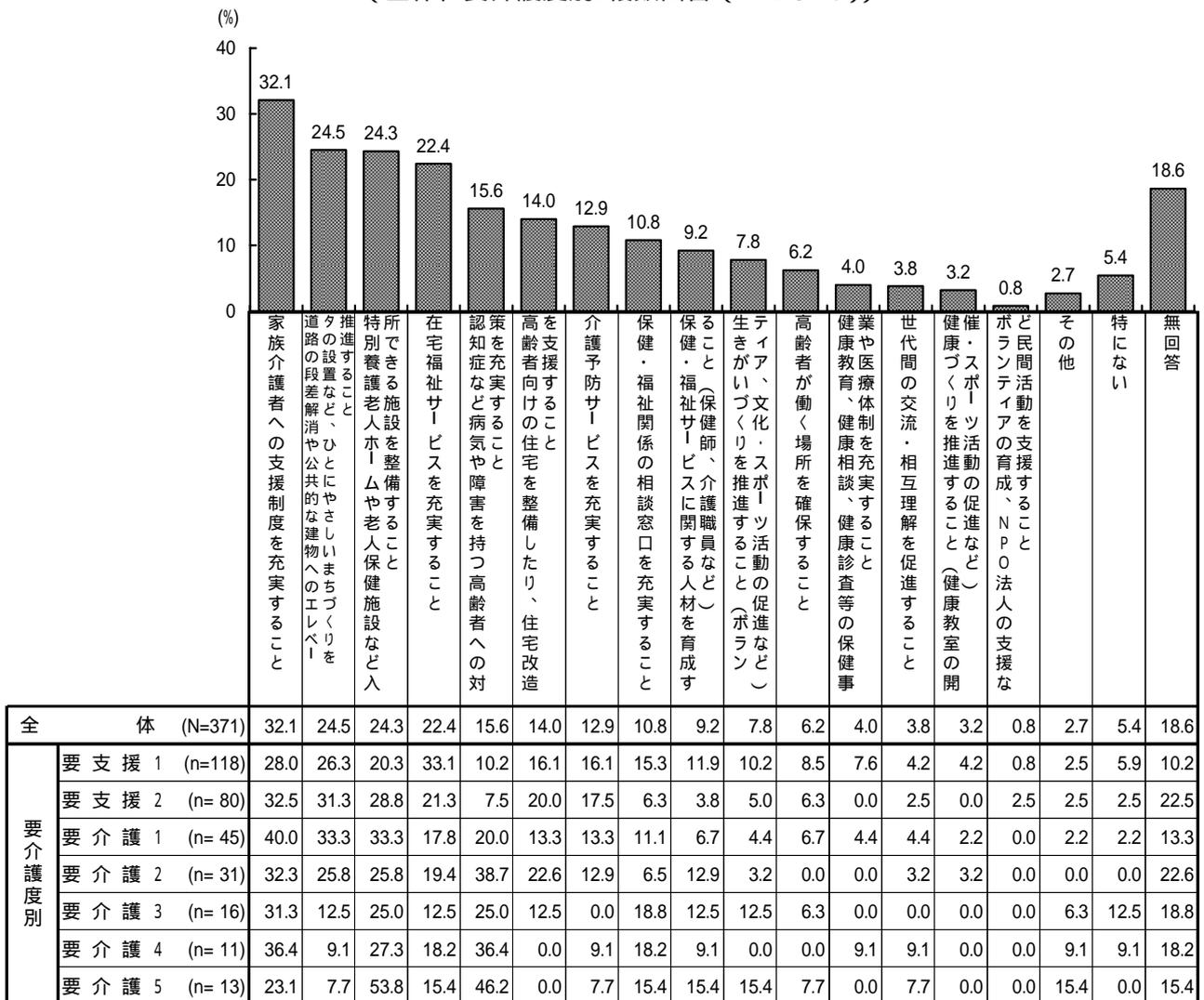


市が優先的に取り組むべき保健福祉サービス:(問16)

市が優先的に取り組むべき保健福祉サービスは、「家族介護者への支援制度を充実すること(32.1%)」が最も多く、「道路の段差解消等ひとにやさしいまちづくりを推進すること(24.5%)」、「特別養護老人ホームなど入所できる施設を整備すること(24.3%)」、「在宅福祉サービスを充実すること(22.4%)」が続いている。

要介護度別に上位項目をみると、要介護5では「特別養護老人ホームなど入所できる施設を整備すること(53.8%)」が5割を超え、「認知症など病気や障害を持つ高齢者への対策を充実すること(46.2%)」が続いている。要介護1~4では「家族介護者への支援制度を充実すること」が3~4割で上位にある。要支援1~2では「在宅福祉サービスを充実すること」、「介護予防サービスを充実すること」、「高齢者向け住宅を整備したり、住宅改造を支援すること」が上位にあげられている(図表4-5-2)。

図表4-5-2 市が優先的に取り組むべき保健福祉サービス
(全体、要介護度別:複数回答(3つまで))



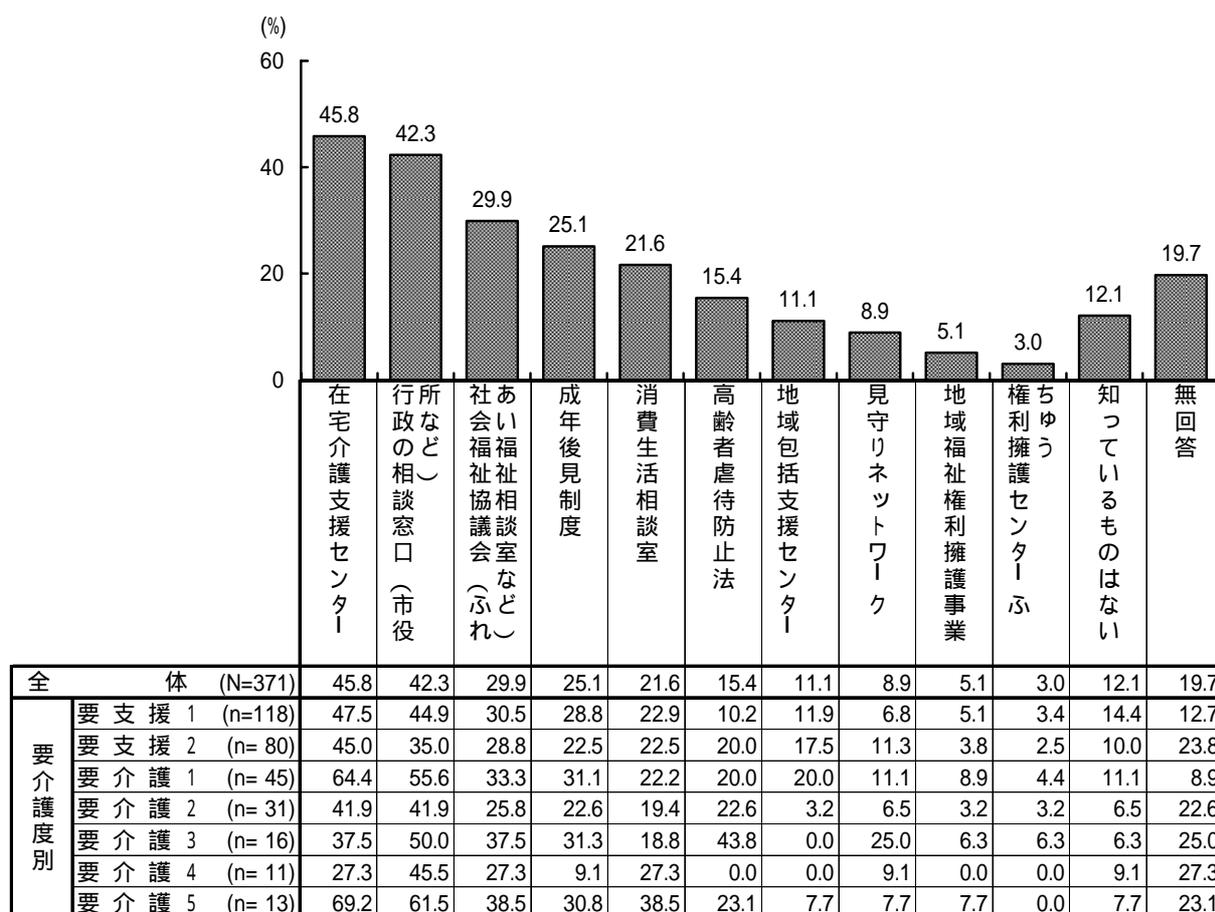
(6) 高齢者の権利擁護

権利擁護の制度や相談窓口の周知状況(問17)

高齢者の権利や生活を守るための制度や窓口として知っているものは、「在宅介護支援センター(45.8%)」が最も多く、「行政の相談窓口(市役所など)(42.3%)」、「社会福祉協議会(ふれあい福祉相談室)(29.9%)」、「成年後見制度(25.1%)」、「消費生活相談室(21.6%)」が続いている。

要介護度別にみると、要介護度5では、在宅介護支援センターは7割、行政の窓口は6割と高い。要介護3と4では、行政の窓口の周知度が最も高く約5割である(図表4-6-1)。

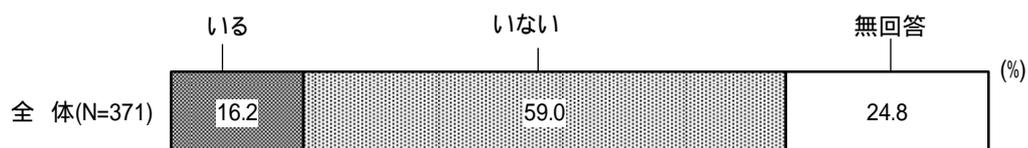
図表4-6-1 権利擁護の制度や相談窓口の周知状況(全体、要介護度別:複数回答)



周囲で困っている人の有無（問 18）

周囲で困っている人は、「いない」が 59.0%、「いる」が 16.2%となっている（図表 4 - 6 - 2）。

図表 4 - 6 - 2 周囲で困っている人の有無（全体）

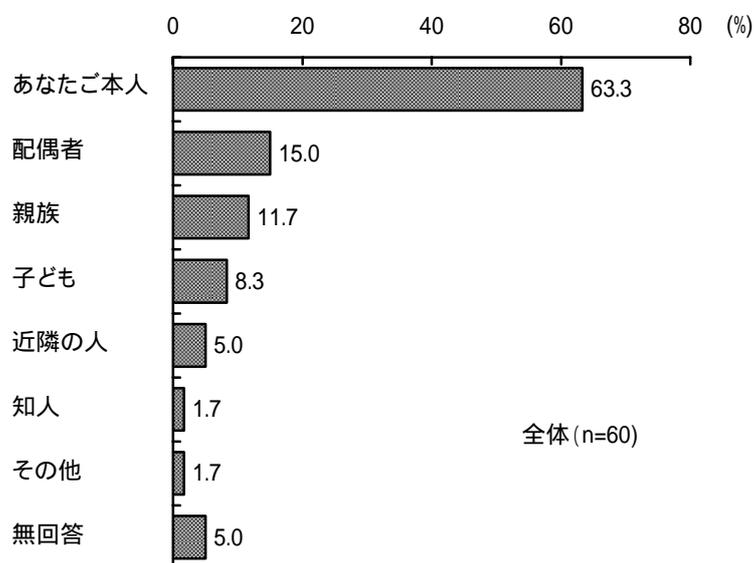


周囲で困っている人（問 18 - 1）

周囲で困っている人が「いる」と回答した人に誰かたずねたところ、「本人（63.3%）」が最も多く、「配偶者（15.0%）」、「親族（11.7%）」、「子ども（8.3%）」が続いている（図表 4 - 6 - 3）。

図表 4 - 6 - 3 周囲で困っている人

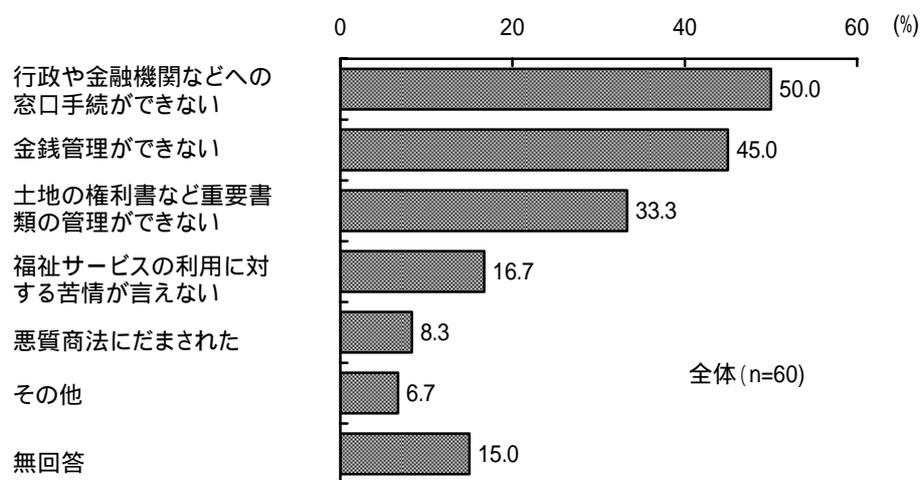
<周囲に困っている人がいると回答した人>（全体：複数回答）



周囲で困っている人の事例（問 18 - 2）

周囲で困っている人が「いる」と回答した人にどのような事例かたずねたところ、「行政や金融機関などへの窓口手続きができない（50.0%）」が最も多く、「金銭管理ができない（45.0%）」、「土地の権利書など重要書類の管理ができない（33.3%）」が続いている（図表 4 - 6 - 4）。

図表 4 - 6 - 4 周囲で困っている人の事例
 <周囲に困っている人がいると回答した人>（全体：複数回答）



災害時のための個人情報提供への考え方（問 19）

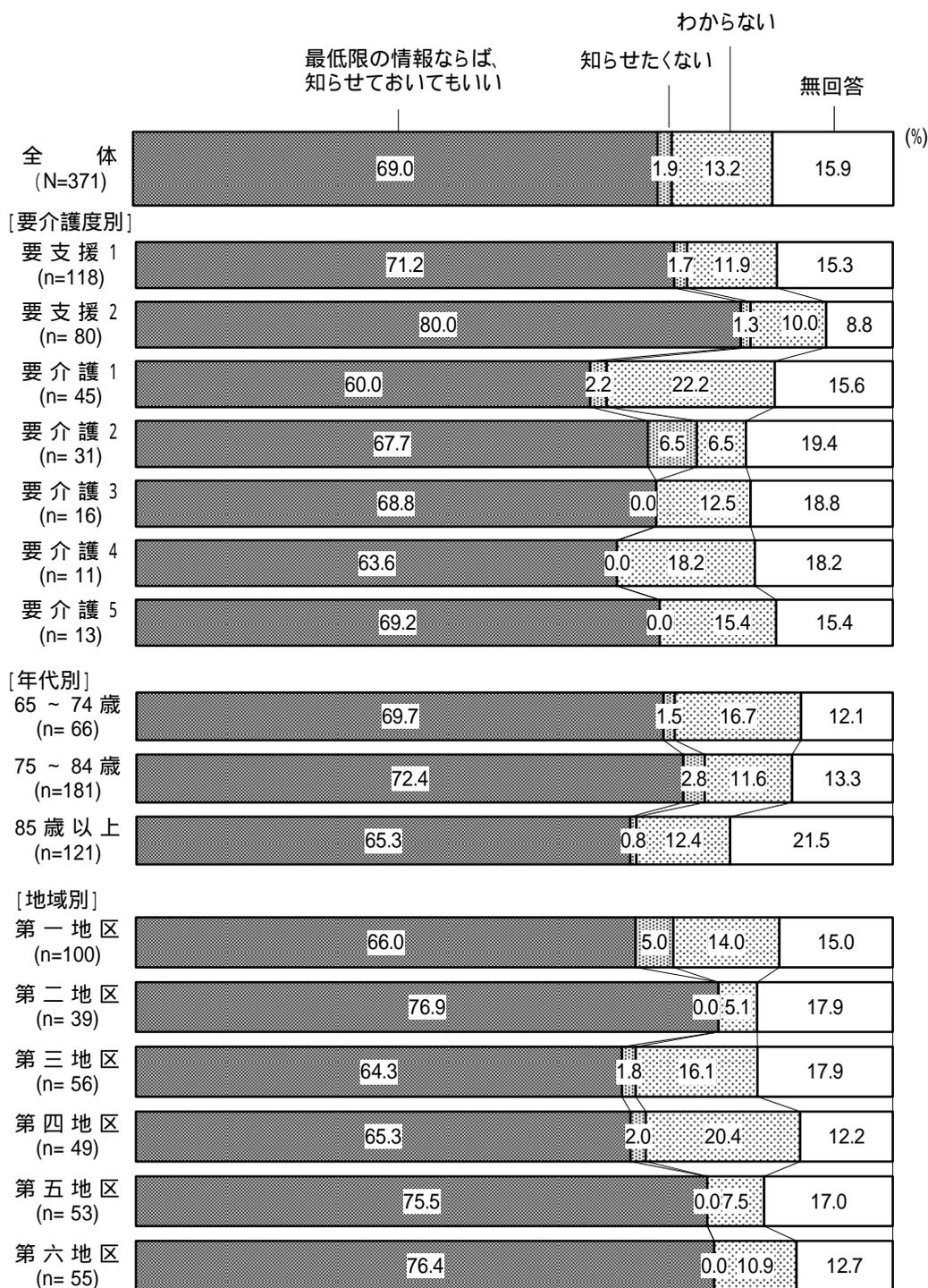
災害時に避難を助けたりするため、市役所、消防署、警察署や町内会・自治会へ、住所・氏名・連絡先などの個人情報を知らせておくことは「最低限の情報ならば、知らせておいてもいい（69.0%）」が最も多く7割である。

要介護度別にみると、要支援1～2では、「最低限の情報ならば、知らせておいてもいい」が7～8割と高くなっている。

年齢別にみると、「75～84歳」では、「最低限の情報ならば、知らせておいてもいい」が7割以上と高くなっている。

地域別にみると、第二、第五、第六の3地区で、「最低限の情報ならば、知らせておいてもいい」が平均より高くなっている（図表 4 - 6 - 5）。

図表 4 - 6 - 5 災害時のための個人情報提供への考え方
(全体、要介護度別、年齢別、地域別)



(7) 市への要望 (問20)

保健福祉や介護保険について、市への意見・要望を自由記述形式でたずねたところ、全体で60件の回答があった。以下、主なものを掲載する。また、記入者が「本人」以外の場合は【 】内に家族と書かれている。

在宅サービス、保健福祉サービスについて：8件

- ・在宅サービスで、掃除、食事等を依頼した場合、掃除は要介護者の部屋のみ、食事も要介護者の食事のみと聞いているが、事実なのか。(女性、90~94歳、要支援1)【家族】
- ・短期入所で近くの施設に妻を入所させようとしたところ断られ、指定された所は遠い所。入所先の選択の自由がないのはおかしい。(男性、75~79歳、要支援1)【家族】
- ・各センターに入浴場、広間に健康器具等を揃えていただき、とても助かっているが、入浴の日が少しずつ減らされて、入浴日がわずかになってしまうことをとても危惧している。歳を重ねると遠くへ行くことがかなわなくなり、入浴で体を温めることが相乗効果で老化防止に一番の薬なので、入浴日を減らさないで欲しい。(女性、75~79歳、要支援1)
- ・現在、入院中の配偶者が長期に渡ると本人の願望で数日の帰宅が許されたり、また、死が近くなるとできるだけ自宅で過ごしたいと願うが、現在の制度は在宅介護を中心に構成されており、入院中の者と介護者には制度上何一つ援助がないのが現状。制度の改善を願う。(女性、75~79歳、要介護4)【家族】

要介護認定について：2件

- ・腰が痛くなって半年、家の中を這っているのに要支援2で現在に至っている。施設は要介護1以上でないと受け入れてくれない。他市の状況など、いろいろ調べたところ、今の状況では要介護1~3で認定されるといわれているが、どうなのか。(女性、90~94歳、要支援2)【家族】

保険料等について：11件

- ・介護保険料を安くしていただきたい。利用している人とぎりぎりまで利用しない人の差を考えて欲しい。(女性、90~94歳、要支援2)
- ・専業主婦で国民年金もわずかしか貰っていないのに、第4段階で、年金の10%も保険料を納めている。保険料を下げていただきたい。(女性、75~79歳、要支援2)
- ・介護保険サービスも月々の支払いとなると多くなるので、思うように利用できないでいる。(男性、65~69歳、要介護1)

介護・福祉・医療についての要望：2件

- ・病気のと看、医師に往診してもらえるようにして欲しい。市としてそのような制度は作れないのか。(男性、80~84歳、要支援2)

施設・住宅に対する要望：6件

- ・ 特別養護老人ホームを希望しているが、胃ろうになったため入所を受理してくれるところを探すのが大変となっている。在宅介護支援センターで相談しても解決しないので途方にくれている。特別養護老人ホーム、老人保健施設など早く入所できる施設を多く整備して欲しい。(女性、65～69歳、要介護5)【家族】
- ・ 高齢者向けの住宅・施設を整備し、必要に応じ、なるべく早い時期に入所できるよう充実して欲しい。(女性、80～84歳、要支援2)

ヘルパー、ケアマネジャー、事業所について：4件

- ・ いくつかあるが、一つだけ要望する。訪問介護の方々の研修の充実と待遇の改善を望む。(男性、75～79歳、要介護1)
- ・ デイサービスの中には、何の資格もない人を雇って、その人に食事や入浴の介助をさせるところもあるときいた。民間のデイサービス施設への定期的なチェックをよろしく願いたい。(女性、75～79歳、介護度不明)

情報提供、相談などについて：4件

- ・ 高齢者の権利や生活を守るための制度や窓口があることはうかがっているが、それぞれの情報を分かりやすく、知らせていただければと思う。(女性、85～89歳、要支援2)【家族】
- ・ 高齢者が窓口に行った時は親切に教えて欲しい。様々な申請書が、非常に日数がかかって大変となっている。(女性、75～79歳、要介護1)

まちづくりについて：2件

- ・ 足が悪く階段が辛く、荷物を持っていると手すりにもつかまることができず、苦労している。買い物用の車も階段では持ち運べず困っている。歩道橋の階段をスロープにするなど配慮していただけるとありがたいと思う。(女性、70～74歳、要支援1)

行政への要望：9件

- ・ 介護保険被保険者証が要支援1となっているが、これはどういう時に利用してよいか分からないので、教えて欲しい。(女性、70～84歳、要支援1)
- ・ 福祉に関する手続きが複雑で、高齢者にとっては大変なことだ。(男性、65～69歳、介護度不明)
- ・ 高齢者は頭の回転が遅いので、小さいことでも、ゆっくりと笑顔で対応して欲しい。(男性、70～74歳、要支援1)

将来への不安：4件

- ・ 現在、主人の年金生活で生活難ではないが、主人も84歳で、現在はどうか元気にしているが、将来的には不安があり、万一に備えて考えている。保健福祉はできるだけ安く、生活ができるようにして欲しいと思う。(女性、75～79歳、介護度不明)

満足・感謝：3件

- ・ 福祉については、他の市より手厚い制度があり、ありがたいと思っている。(女性、75～79歳、要支援2)

その他：5件

- ・ できるだけ人様や子どもたちに世話にならないよう心がけたいと思い、今のところは、できるだけ頭を働かせている。(女性、90～94歳、介護度不明)

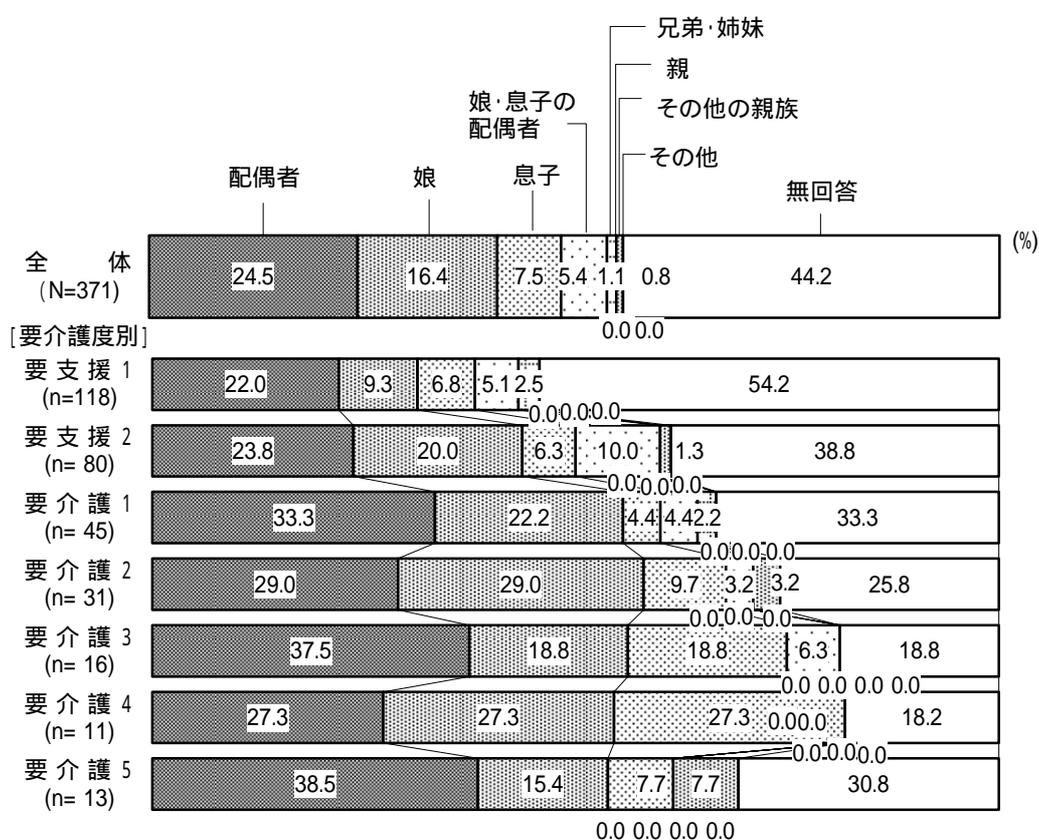
(8) 介護者の状況・意向

主な介護者 (問 21)

主な介護者は、「配偶者 (24.5%)」が最も多く、「娘 (16.4%)」、「息子 (7.5%)」、「娘・息子の配偶者 (5.4%)」が続いている。

要介護度別にみると、いずれも主な介護者は「配偶者」次いで「娘」が多いが、要介護3、4では「息子」も多くなっている (図表4-8-1)。

図表4-8-1 主な介護者 (全体、要介護度別)



主な介護者の年齢（問 22）

主な介護者の年齢は、「50歳代（15.1%）」が最も多く、「60～64歳（8.4%）」、「70～74歳」と「75～79歳」が7.5%、「80～84歳（6.7%）」が続いている。75歳以上の後期高齢者が15.5%を占める。

要介護度別にみると、要支援1～要介護2は全体と同様、「50歳代」が最も多い。

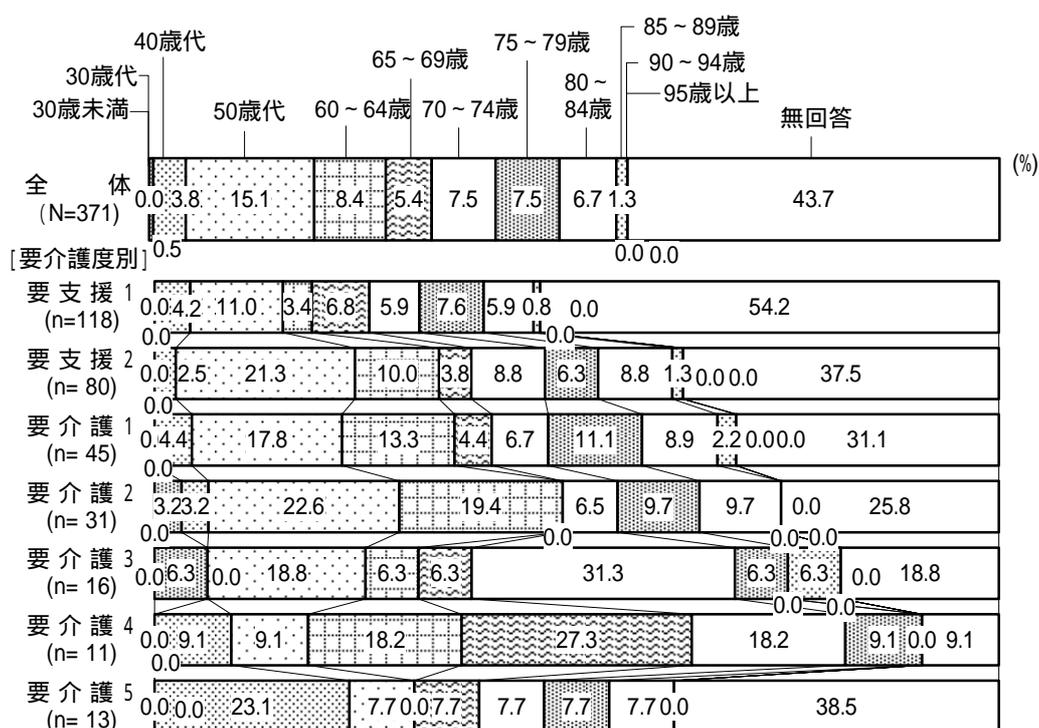
要介護3では「70～74歳（31.3%）」が最も多く「50歳代（18.8%）」が続いている。

要介護4では「65～69歳（27.3%）」が最も多く「60～64歳」と「70～74歳」が18.2%で続いている。

要介護5では「40歳代（23.1%）」が最も多い。

サービス未利用者の介護は、配偶者、娘、息子など多くの年代が関わっていることがうかがわれる（図表4-8-2）。

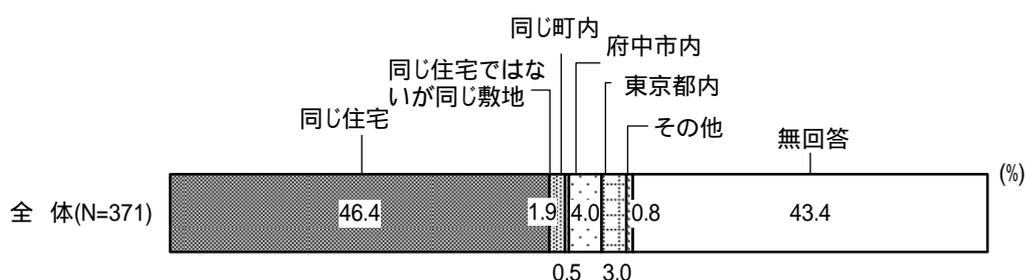
図表4-8-2 主な介護者の年齢（全体、要介護度別）



主な介護者の居住地（問 23）

主な介護者の居住地は、「同じ住宅（46.4%）」が最も多く、「府中市内（4.0%）」、「東京都内（3.0%）」が続いている。「同じ住宅」、「同じ住宅ではないが同じ敷地」、「同じ町内」を合わせると、同居・隣居・近居が48.8%で5割弱である（図表4-8-3）。

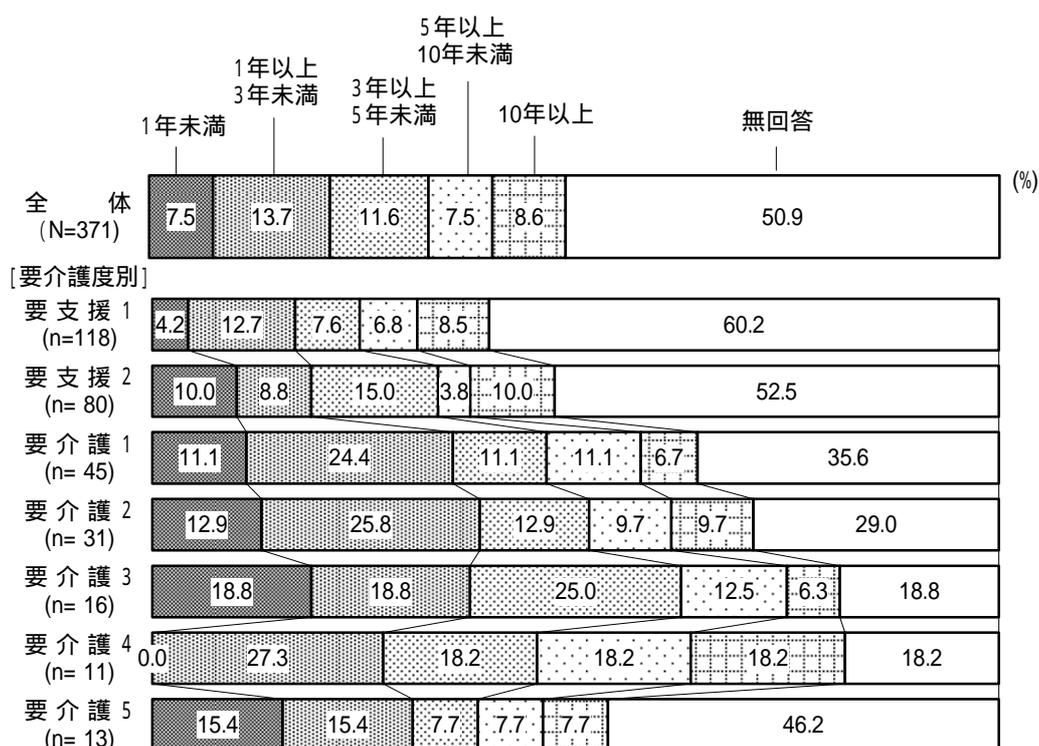
図表4-8-3 主な介護者の居住地（全体）



介護している期間（問 24）

介護している期間は、「1年以上3年未満（13.7%）」が最も多く、「3年以上5年未満（11.6%）」が続いている。5年以上の介護は16.1%である（図表4-8-4）。

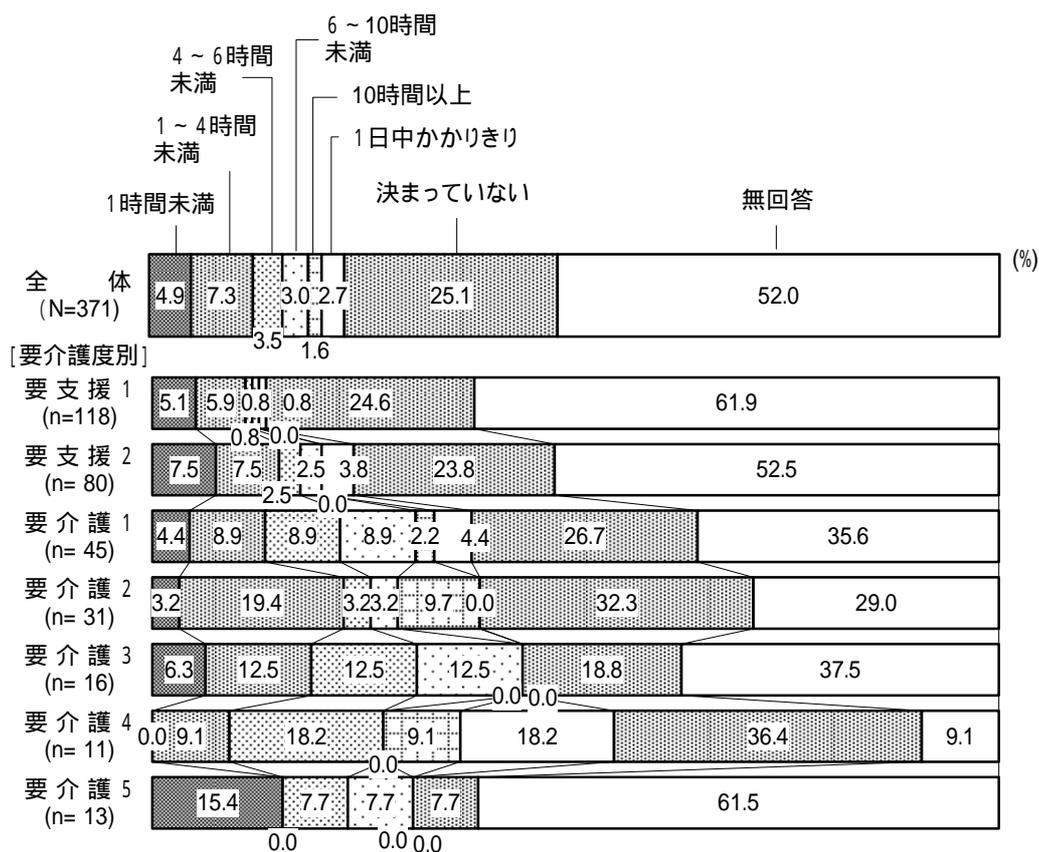
図表4-8-4 介護している期間（全体、要介護度別）



1日の介護時間（問25）

介護に関わっている1日の平均時間は、「決まっていない(25.1%)」が最も多く、「1～4時間未満(7.3%)」が続いている(図表4-8-5)。

図表4-8-5 1日の介護時間（全体、要介護度別）



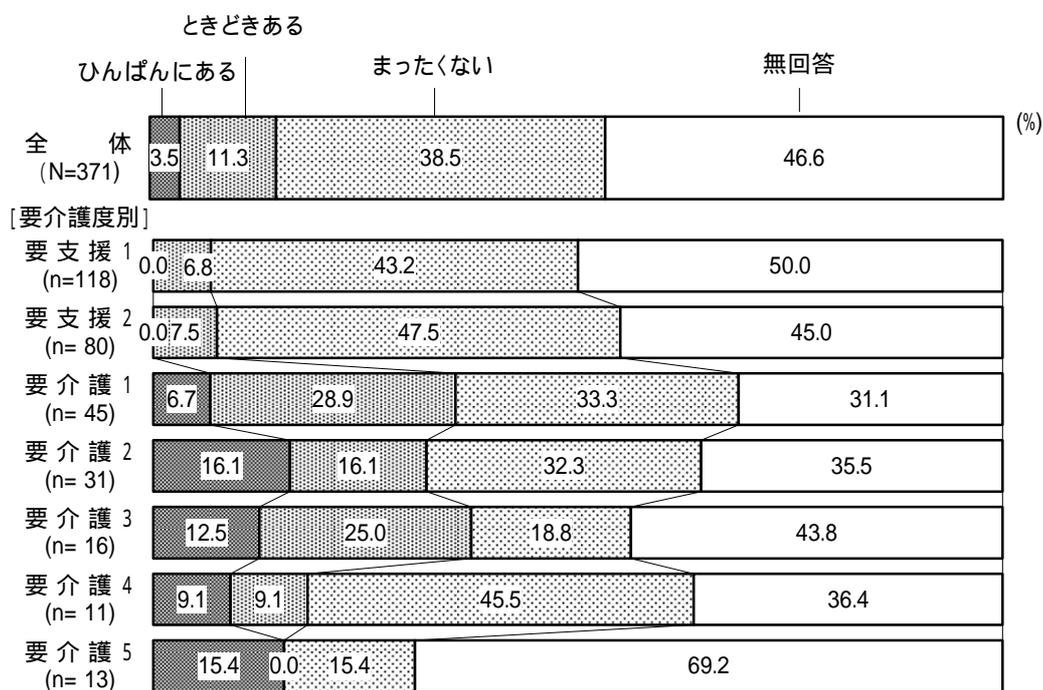
認知症の症状（問26）

「慣れた道や場所がわからなくなること」は、「ときどきある(11.3%)」、「ひんぱんにある(3.5%)」をあわせた何らかの症状がある人は14.8%である。要介護度別にみると、何らかの症状のある人は要介護1～3で多く、3割強である(図表4-8-6)。

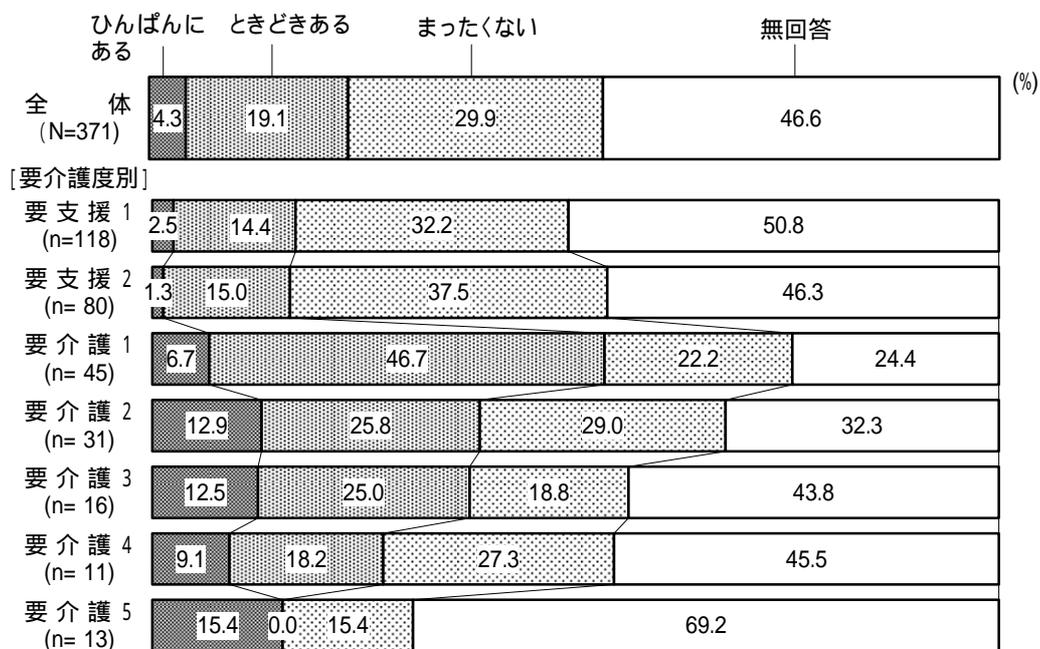
「薬を飲む時間や飲む量を間違えること」は、「ときどきある(19.1%)」、「ひんぱんにある(4.3%)」をあわせた何らかの症状がある人は23.4%である。要介護度別にみると、何らかの症状のある人は要介護1～3で多く、3～5割である(図表4-8-6)。

「火の始末や火元の管理ができなくなること」は、「ときどきある(15.4%)」、「ひんぱんにある(1.6%)」をあわせた何らかの症状がある人は17.0%である。要介護度別にみると、何らかの症状のある人は要介護1～3で多く、3～4割である(図表4-8-6)。

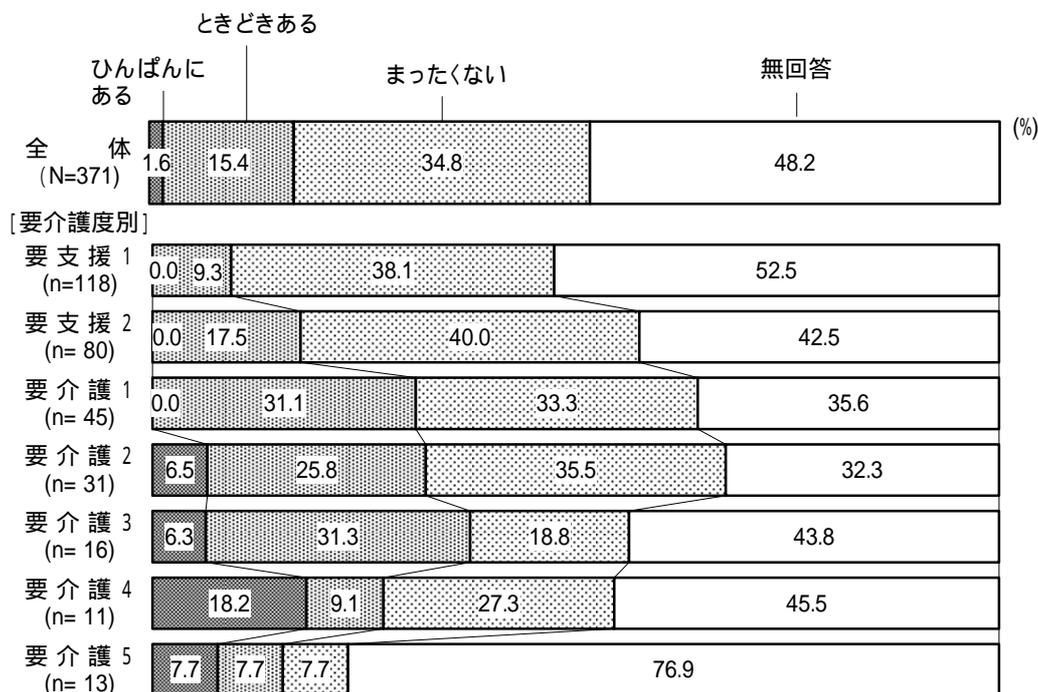
図表4-8-6- 慣れた道や場所が分からなくなること(全体、要介護度別)



図表4-8-6- 薬を飲む時間や飲む量を間違えること(全体、要介護度別)



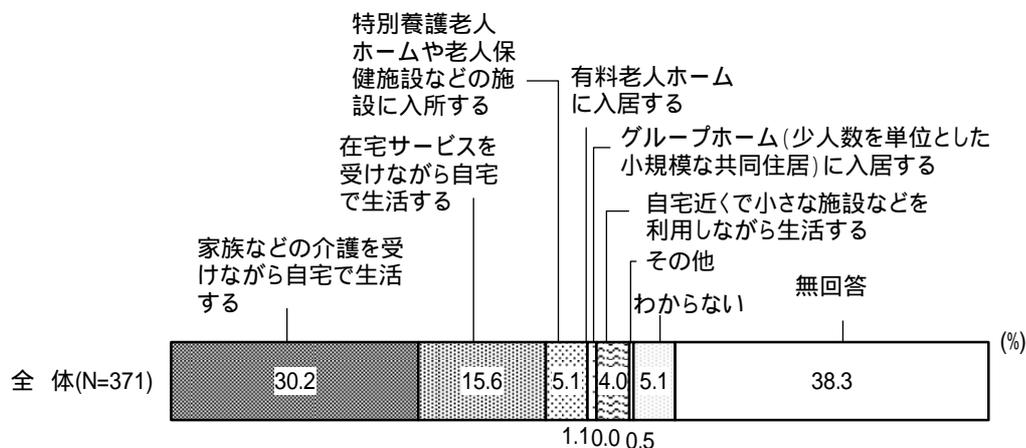
図表4-8-6 火の始末や火元の管理ができなくなること（全体、要介護度別）



介護されている人の今後の生活の場所（問27）

介護されている人が今後、生活するのに良い場所は、「家族などの介護を受けながら自宅で生活する(30.2%)」、「在宅サービスを受けながら自宅で生活する(15.6%)」をあわせると、「自宅がよいと考える」介護者は45.8%で半数に近い(図表4-8-7)。

図表4-8-7 介護されている人の今後の生活の場所（全体）

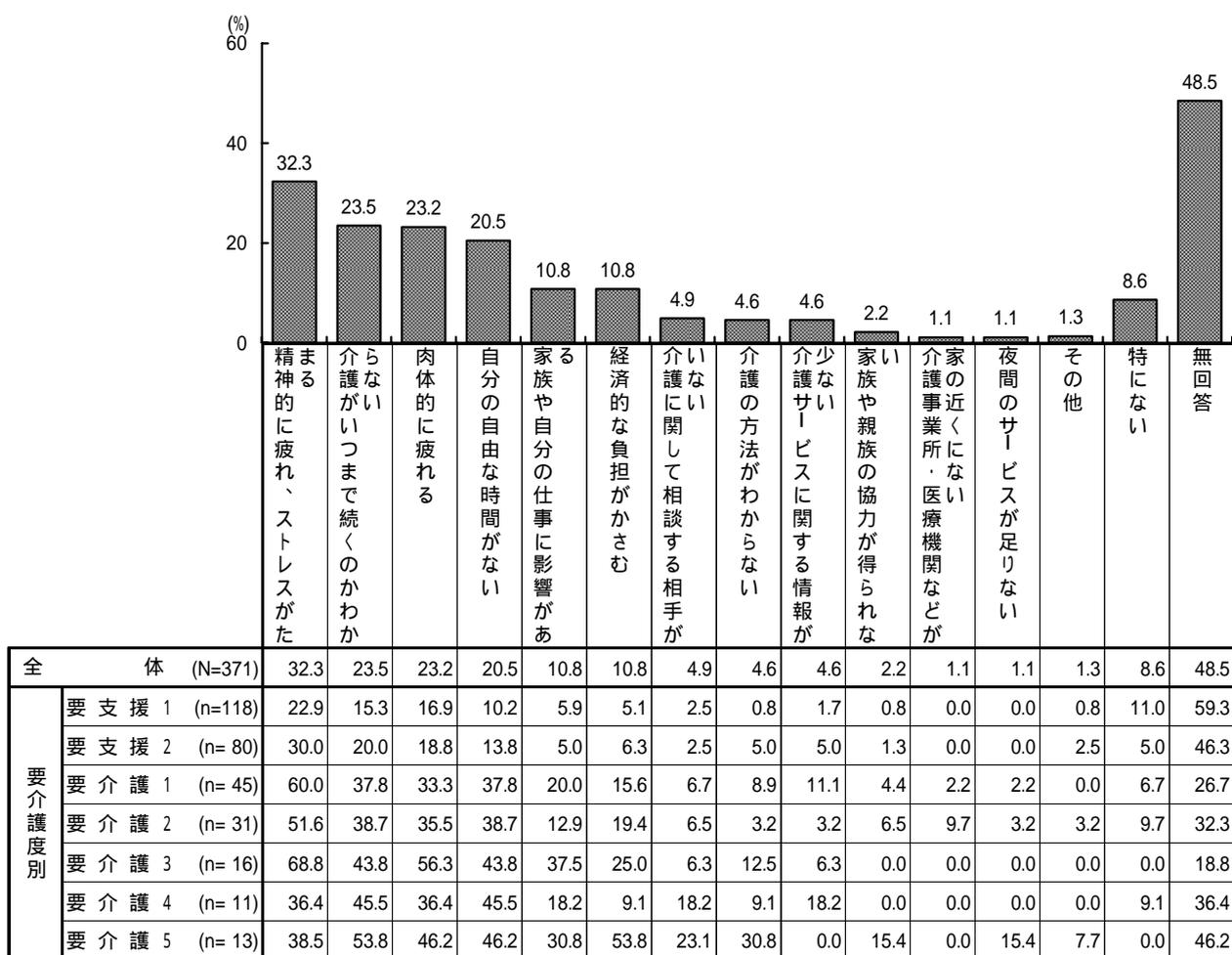


介護の問題点（問 28）

介護の問題点は、「精神的に疲れ、ストレスがたまる（32.3%）」が最も多く、「介護がいつまで続くのかわからない（23.5%）」、「肉体的に疲れる（23.2%）」、「自分の自由な時間が無い（20.5%）」が続いている。

要介護度別にみると、要介護3では「精神的に疲れ、ストレスがたまる」という回答が多く7割近い。全体的に重度の方から問題点が多くあげられている（図表4-8-8）。

図表4-8-8 介護の問題点（全体、要介護度別：複数回答）



(9) 介護者の意見・市への要望等(問29)

介護者が感じている介護の問題、経済的負担、遠距離介護や呼び寄せ介護の問題、市への意見・要望・提案について、自由記述形式でたずねたところ、全体で51件の回答があった。以下、主なものを掲載する。

家族の介護について：16件

- ・ なかなか介護を利用しながらいない高齢者が多いと聞く。症状の重い人達と一緒にされるのがいやだというのも原因の一つと思う。介護度の軽い人達向けのデイサービス、例えば、送迎、昼食つきの施設外での楽しみ(講演会・観劇会・落語・お花見など)、芸術の森や公園の散歩など、充実した施設があるので、機会があれば家族同伴でなくても利用できたら良いと思う。本人も自立した気分が味わえる。多少の負担があっても厭わないと思う。(女性、80~84歳、要支援2)
- ・ 97歳になる父親を娘夫婦で在宅介護している。かかりつけの医療機関が近くにあり親身になってくれるので介護ができる。介護保険料は高齢になっても払い続けているが、サービスを受けていないので、せめて、おむつ代の一部でも支給されたらと思っている。(男性、95歳以上、要支援2)
- ・ 主人85歳、本人81歳、いつ終わりになるかと心配している。私がどうやら頭がぼけていないので何とか生活しているが、歩くのが大変なので全てタクシーを利用しているが、銀行などへ行くとき困っている。(女性、80~84歳、要支援2)
- ・ 娘が近くに住んでいるので、このまま、在宅サービスも利用しながら、父と母を自宅で見たいと思っている。ただ将来的には経済的負担もでてくるし、身近に相談できる人や場所も欲しい。特に父はプライドも高く、病院やデイサービス等の利用をいやがる。介護サービスを受けていない高齢者を対象にした巡回(訪問)健診を是非お願いしたい。早く予防や治療ができれば、本人ももっと豊かな老後を過ごせると思う。(女性、85~89歳、要支援2)

認知症への対応について：4件

- ・ 人格が変わり、感情が抑制できなくなる初期の認知症になったときは周囲も混乱する。本人は何を言っても聞かないので、病院に連れて行くこともできない。デイサービスやショートステイを利用したくても申請することさえ困難。このような状況が長く続くと家族はノイローゼになってしまう。早期に発見するためにも、強制的にでも脳神経外科で検査して医学的診断がもらえる制度を是非確立していただきたいと切に願っている。サービスを利用したくてもあきらめている家族も多いと思う。(女性、85~89歳、要介護2)
- ・ 認知症なので医者から要介護認定を進められ手続きをしたが、症状が軽いのと常に家族がいることが多かったため、サービスの利用を躊躇していた。家族が外出することが増え、一人でいることが多くなってきているので、今後はサービスを利用したいと思い、ケアマネジャーに相談しているところだ。今回のアンケートの提出が遅くなったのも、本人宛の

書類を家族に見せる前に、本人がどこかにしまいこんで分からなくなり、先日再度送られてきた回答願いを家族が見つけて、あちこち探して書くことができた。(女性、80~84歳、要支援1)

- ・ 父が徘徊し、府中市以外の警察署に保護された時、110番通報していても府中署には連絡がなく、直接自宅に連絡があった。保護された時点で府中署に連絡があれば、少しでも早く迎えに行くことができるので、府中市民であることが分かる身分証明書(住所、氏名、連絡先など必要最小限の情報を掲載)を発行してもらえたらよいと思う。(男性、65~69歳、要介護3)

介護保険について：6件

- ・ 介護者の希望する援助は多様でそれぞれ内容が違うと思うが、介護保険では項目が細かく定められており、機械的と思う。また、時間もサービスの価格が定められており、あまりに経済的なことが優先されているように感じている。もっと受ける側の心の満足を与えてもらえるような制度を作っていただければと思う。(女性、75~79歳、要介護4)
- ・ 82歳と86歳で病気がちな老人を抱えていても要支援1、2くらいでは何の救いもないのが現状なので、がっかりしている。(男性、85~89歳、要介護1)

経済的負担について：9件

- ・ これ以上の介護が必要になったとき、経済的にどこまで続くかと心配になる。(男性、75~79歳、要支援2)
- ・ 医療費・薬代がとても大変。税金もあるし、介護サービスを頼んでも月々の支払いが大変だ。(男性、65~69歳、要介護1)

施設に対する要望：1件

- ・ 脳内出血で入院した主人が要介護5と認定され、病院から在宅介護は難しい、療養型医療施設に入院するのなら、病院のほうでも紹介すると宣告された。いろいろな人に聞くと施設には何年も待たないと入れないようだが、市役所の方でも施設を紹介してくれるのか、何課に行けばよいのか、教えていただきたいと思う。(男性、80~84歳、要介護5)

ケアマネジャー、人材について：3件

- ・ 市で、介護に対して理解ある人材を育てて欲しい。(女性、70~74歳、要介護3)
- ・ 本当に親身になって相談してくれる相手、医師がいないことを身にしみて感じ、落ち込んでいた時、ケアマネジャー、看護師の方にあたたかい助言を頂いたことで救われた。そのような相談所がたくさんできて、助けてもらえることを希望する。(男性、80~84歳、要介護1)

相談などについて：4件

- ・ 高齢者2人だけの生活で、近隣に近親者がいないので、急病時、特に夜間など、本当に不

安にかられる。是非相談したいが、アドバイスをいただきたい。(女性、80～84歳、要支援2)

- ・ 病人を抱えると、医療・介護・法律など問題が次から次へ出てくる。もちろん経済的問題も深刻。総合的相談窓口はどこにあるのか、教えていただきたい。(女性、65～69歳、要介護5)

アンケートについて：3件

- ・ 現在は介護というより手伝うという状況が続いている。今回のアンケートでは、高齢者と共に生活している者の情報を得るには、アンケートをする側とアンケートされる側との間にギャップがあり、回答に苦慮することが多くあった。年とともに段階的に手助けが必要となるが出てくるのは当たり前のこととして、周りの人が、家族以外の人をまきこめる地域サポート体制としての介護保険であって欲しい。(女性、80～84歳、要支援1)

府中市に対して：8件

- ・ たくさんの質問のアンケートでなくても、本人や家族に年に1度でも「おたずねの手紙」などをいただけたら、家族は市で見守って頂いているという安心が感じられると思う。でも府中市は介護の施設でもとても恵まれているとサービスの手続きをして分かっている。(女性、85～89歳、要介護1)
- ・ 府中市の介護サービス等には、いつも感謝している。(女性、85～89歳、要支援1)

その他：8件